

災害情報等に関する住民実態調査報告書

平成26年 2月

敦 賀 市

目 次

I. 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 標本数の算出方法	1
3. 標本数の算出結果	2
4. 調査対象及び調査方法	3
5. 調査項目	3
6. 調査票回収結果	3
7. 主な調査結果	4
II. 単純集計結果	6
1. 個人属性	6
2. 台風18号当日の「避難準備情報」把握状況	8
3. 台風18号当日の「特別警報」把握状況	10
4. 台風18号当日の「避難勧告」把握状況	12
5. 台風18号当日の避難行動	14
6. 台風18号当日の情報収集	15
7. 防災関連情報についての把握状況	17
8. 災害時要援護者の状況	20
III. クロス集計結果	22
1. 避難準備情報	22
2. 特別警報	23
3. 避難勧告	24
4. 最も有効な情報源	27
5. 防災関連情報	30
6. 災害時要援護者同居者の状況	35

IV. 自由意見..... 38

1. 防災情報の伝達方法や内容について..... 38

2. 災害時要援護者の安全確保について..... 40

V. 考 察..... 42

1. 防災情報伝達の現状について..... 42

2. 課題の抽出について..... 43

3. 防災情報伝達に関する改善の方向性について..... 46

【参考資料】

1 台風18号における住民広報手段一覧表..... 資- 1

2 災害対策本部 時系列..... 資- 2

3 問2.2自由意見 回答一覧..... 資- 4

4 アンケート調査票..... 資-12

1. 調査概要

1. 調査目的

本アンケート調査は、平成 25 年 9 月 15 日から 16 日にかけて、京都府、滋賀県、福井県に大きな被害をもたらした「台風 18 号」について、本市における防災情報の伝達状況や避難行動の実態などを調査・分析することにより、防災情報伝達のあり方や改善点を検証し、今後の防災対策の強化につなげていくことを目的とするものである。

2. 標本数の算出方法

必要標本数の算出は以下の理論に基づいて行う。

(1) 単純無作為抽出法による標本調査の標本誤差 F

単純無作為抽出法による標本調査の標本誤差 F は以下の式により表される。

$$|p - P| = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{(1 - P)P}{n}} \equiv F \dots\dots(1)$$

N : 母集団の成員数
n : 標本数
P : 母集団の調査事項に対する調査結果の比率
p : 標本の調査事項に対する調査結果の比率

(2) 目標の標本誤差 F を与えた場合に必要となる標本数 n

上記 (1) 式をもとにして、抑えるべき目標の標本誤差 (F) を与えた場合に必要となる標本数 n^* の理論値を (1) 式の逆算により算出する。以下の (2) 式で求めた n^* に (3) 式で修正係数を乗じて n^{**} を計算するという手順により算出する。

$$n^* = \left(\frac{2}{F}\right)^2 (1 - P)P \dots\dots(2)$$

$$n^{**} = n^* \times \frac{N}{N + n^* - 1} \dots\dots(3)$$

3. 標本数の算出結果

標本数の算出条件は以下のとおりとする。

(1) 算出条件

N : アンケート対象人口 (敦賀市 20 歳以上人口 (H25. 3. 29 現在) 【55,188 人】)

P : 0.5 ($P = 50\%$ の時に標本誤差が最大となるため)

F : 0.05 (信頼水準 95%=95%の確かさと設定)

(2) 算出結果

$$n^* = \left(\frac{2}{F}\right)^2 (1-P)P = \left(\frac{2}{0.05}\right)^2 \times (1-0.5) \times 0.5 = 400$$

$$n^{**} = n^* \times \frac{N}{N + n^* - 1} = 400 \times \frac{55,188}{55,188 + 400 - 1} = 397$$

よって、回収率 100%と仮定した場合に必要な標本数は 397 部となる。

次項に、上記の必要な標本数に対して、実際の回収率 (70%~10%) を考慮した必要配布数を示す。

回収率別の必要配布部数 (標本誤差 5%の場合)

標本算出結果			回収率	必要配布数
N	20 歳以上人口	55,188	70%	567
F	目標とする標本誤差	5%	60%	662
P	母集団の調査事項に対する調査結果の比率	0.5	50%	794
n^*		400	40%	993
n^{**}	回収率 100%時の必要標本数	397	30%	1,323
			20%	1,985
			10%	3,970

また、回収率の設定は、敦賀市が過去に実施したアンケート調査の事例を参考とし、30%~40%とした。

これより、今回のアンケートにおける配布部数は 1,200 部と決定した。

4. 調査対象及び調査方法

(1) 調査対象

平成 25 年 10 月 29 日現在の 20 歳以上人口から無作為抽出した 1,200 名

(2) 調査方法

郵送配布・郵送回収

(3) 調査期間

平成 25 年 11 月 2 日（土）～11 月 12 日（火）

5. 調査項目

- ・ 特別警報に関する項目
- ・ 避難勧告（避難準備情報）に関する項目
- ・ 防災伝達手段についての市民意識に関する項目

6. 調査票の回収結果

地区名	アンケート 配布部数 (部)	アンケート 回収部数 (部)	アンケート 回収率 (%)	備考
北地区	70	30	42.9	
南地区	130	47	36.2	
西地区	150	73	48.7	
松原地区	230	96	41.7	
西浦地区	10	4	40.0	
東浦地区	30	13	43.3	
中郷地区	40	18	45.0	
東郷地区	120	43	35.8	
愛発地区	20	9	45.0	
栗野地区	400	152	38.0	
不明	—	1	—	地区名未記入分
総合計	1,200	486	40.5	

7. 主な調査結果

(1) 単純集計

- ① 市全体（母集団）と比較した場合、西地区の回収率が高い。（3 頁）
- ② 「避難準備情報」は68%、「特別警報」は約84%、「避難勧告」は約82%の回答者が認識していた。（8 頁、10 頁、12 頁）
- ③ 「避難準備情報」は敦賀市防災情報配信メール（TonBoメール）により認識した回答者が最も多かった。（9 頁）
- ④ 「特別警報」を知ったタイミングは、1 時間以内が57%、2 時間以内が79%となっている。（10 頁）
- ⑤ 「特別警報」を知った情報源は、テレビ28%、防災ラジオ26%の順となっている。（11 頁）
- ⑥ 「避難勧告」を知った情報源は、防災ラジオ27%、テレビ23%の順となっている。（13 頁）
- ⑦ 「避難勧告」を知っていた回答者のうち、自宅以外への避難が8%、自宅内での避難が7%となっており、合わせて15%となっている。（13 頁）
- ⑧ 自宅内での避難行動も含め避難行動をとった理由は、避難勧告に従おうと思ったが37%で最も高かった。（14 頁）
- ⑨ 本市からの防災情報について、非常にわかりやすかった、ある程度理解できたと合わせて78%となっている。（16 頁）
- ⑩ 防災ラジオの認知度94%と比較し、敦賀市防災情報配信メール（TonBoメール）の認知度は54%と低いものとなった。（18・19 頁）

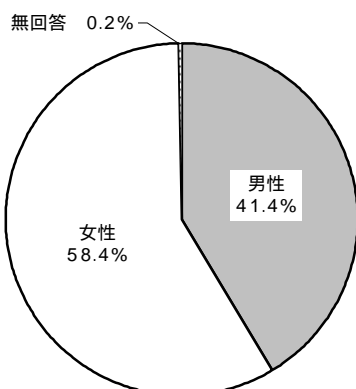
(2) クロス集計

- ① 「特別警報」及び「避難勧告」を知った情報源について、発令後、早い時間帯では防災ラジオの割合が高くなっている。(23・24頁)
- ② 自宅内を含め避難行動をとった回答者の割合は、西地区が最も高かった。(26頁)
- ③ 情報を収集する際に、最も有効だった情報源に関して、「本市から発信したものの(Aグループ)」については、ケーブルテレビの防災放送チャンネル、防災ラジオが、いずれの年代でも比較的高い割合を示していた。(27頁)
- ④ 同じく若年層では、防災関連メールが高い割合となる傾向となった。(27頁)
- ⑤ 情報を収集する際に、最も有効だった情報源に関して、「情報収集するツール(Bグループ)」については、テレビがいずれの年代でも高く、年齢層が高くなるにつれ割合も高くなる傾向となった。(28頁)
- ⑥ 防災ラジオの認知度について、若年層の方が設置済みの割合が低く、あえて設置しない割合が高くなっている。(32頁)
- ⑦ 災害時要援護者の認知度について、災害時に「要援護者」として援護をうける可能性の高い高齢者ほど認知度が高く、逆に援護する側となる可能性の高い若年層ほど低くなっている(34頁)
- ⑧ 災害時要援護者と同居している方のほうが、「避難勧告」が出されたことを知っている割合が比較的高かった。(35頁)
- ⑨ 自宅以外に避難した割合は要援護者との同居の有無で差違が見られなかったが、自宅内避難の割合は要援護者と同居している方が低くなった。(35頁)
- ⑩ 防災ラジオの設置について、災害時要援護者と同居している方のほうが、同居していない方と比較し、約10%高い割合となっている。(36頁)

単純集計結果

1. 個人属性

問1 あなたの性別は

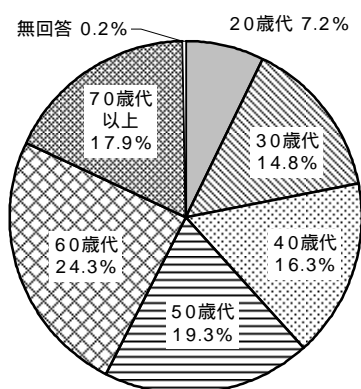


市全体(母集団)と比較した場合、女性の回収率が高い傾向となった。

項目	人数 (割合)
男性	201人 (41.4%)
女性	284人 (58.4%)
無回答	1人 (0.2%)
総数	486人

参考
[市全体の状況]
49.1%
50.9%
100.0%

問2 あなたの年代は

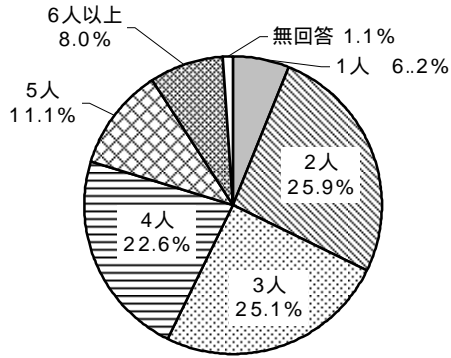


市全体(母集団)と比較した場合、50歳代以上の回収率が高い傾向となった。

項目	人数 (割合)
20歳代	35人 (7.2%)
30歳代	72人 (14.8%)
40歳代	79人 (16.3%)
50歳代	94人 (19.3%)
60歳代	118人 (24.3%)
70歳代以上	87人 (17.9%)
無回答	1人 (0.2%)
総数	486人

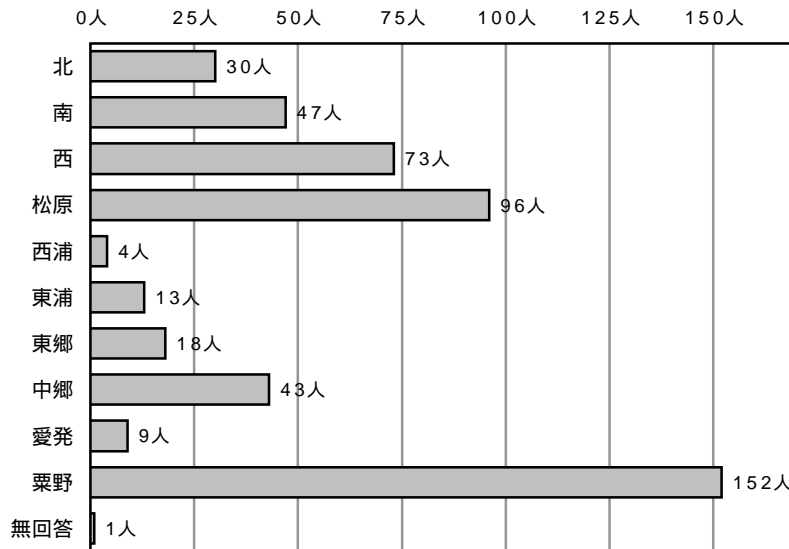
参考
[市全体の状況]
13.8%
17.5%
18.3%
17.7%
19.3%
13.4%
100.0%

問3 あなたのご家族は何人ですか



項目	人数 (割合)
1人	30人 (6.2%)
2人	126人 (25.9%)
3人	122人 (25.1%)
4人	110人 (22.6%)
5人	54人 (11.1%)
6人以上	39人 (8.0%)
無回答	5人 (1.1%)
総数	486人

問4 あなたのお住まいの地区はどちらですか



市全体(母集団)と比較した場合、西地区、松原地区の回収率が高い傾向となっている。

項目	人数 (割合)
北地区	30人 (6.2%)
南地区	47人 (9.7%)
西地区	73人 (15.0%)
松原地区	96人 (19.8%)
西浦地区	4人 (0.8%)
東浦地区	13人 (2.7%)
東郷地区	18人 (3.7%)
中郷地区	43人 (8.8%)
愛発地区	9人 (1.9%)
粟野地区	152人 (31.3%)
無回答	1人 (0.1%)
総数	486人

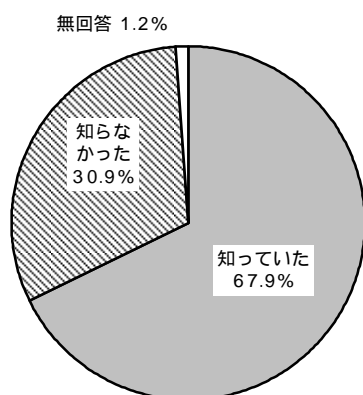
参考
市全体の状況

5.9%
10.4%
12.5%
19.2%
0.9%
2.3%
3.6%
10.2%
1.2%
33.8%
100.0%

2. 台風18号当日の「避難準備情報」把握状況

問5. 「避難準備情報」について

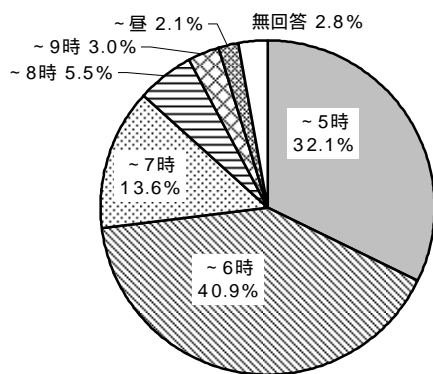
- 1) 台風18号の際、敦賀市では9月16日の午前4時15分に避難準備情報を発令しました。あなたは、「避難準備情報」が出されたことをご存知でしたか。



避難準備情報が発令されたことを68%の回答者が知っていた。

項目	人数 (割合)
知っていた	330人 (67.9%)
知らなかった	150人 (30.9%)
無回答	6人 (1.2%)
総数	486人

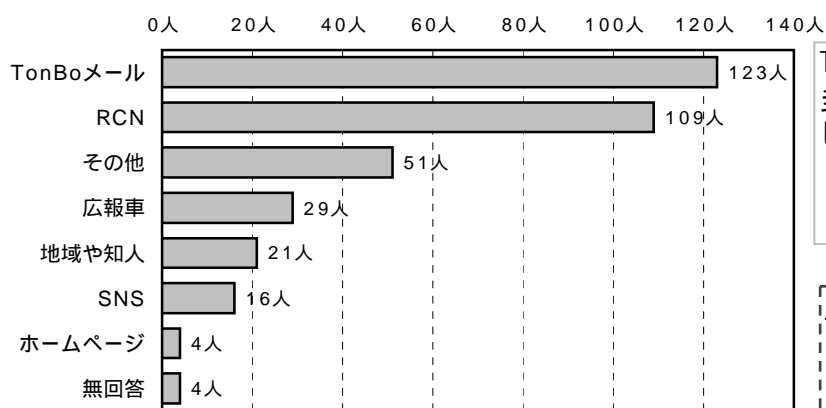
- 2) 1)で「知っていた」と回答された方にお尋ねします。「避難準備情報」を最初に知ったのはいつ頃ですか。



避難準備情報を知ったタイミングは、発令から1時間以内が32%、2時間以内が73%となっている。

項目	人数 (割合)
当日午前4時すぎから午前5時ごろまで	106人 (32.1%)
当日午前5時すぎから午前6時ごろまで	135人 (40.9%)
当日午前6時すぎから午前7時ごろまで	45人 (13.6%)
当日午前7時すぎから午前8時ごろまで	18人 (5.5%)
当日午前8時すぎから午前10時ごろまで	10人 (3.0%)
当日午前10時頃から昼ごろまで	7人 (2.1%)
当日の昼より後	0人 (0.0%)
無回答	9人 (2.8%)
総数	330人

3) 「避難準備情報」が発令されたことを初めに知ったのはどのような情報源でしたか。



TonBoメール(35%)が最も多く、次いでケーブルテレビ(31%)となっている。

その他の自由記載 20件

- ・防災ラジオ(8件)
- ・テレビ(6件)
- ・エリアメール(3件)
- ・携帯・スマートフォン(2件)
- ・知人からの連絡(1件)

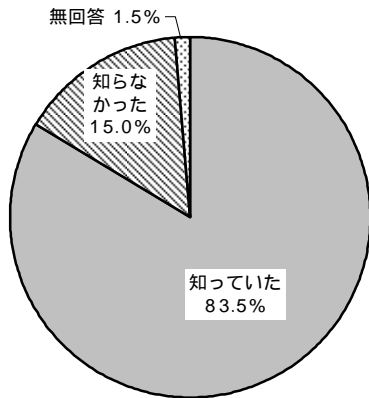
項目	人数 (割合)
敦賀市防災情報配信メール(TonBoメール)	123人 (34.5%)
ケーブルテレビ(RCN)の防災放送チャンネル	109人 (30.5%)
その他	51人 (14.3%)
市役所や消防の広報車	29人 (8.1%)
知人や地域の人からの連絡や情報提供	21人 (5.9%)
ツイッターなどのソーシャルネットワークサービス	16人 (4.5%)
敦賀市のホームページ	4人 (1.1%)
無回答	4人 (1.1%)
総数	357人

1人の回答者が複数の回答を選択した意見も反映されている。

3 . 台風18号当日の「特別警報」把握状況

問6. 「特別警報」について

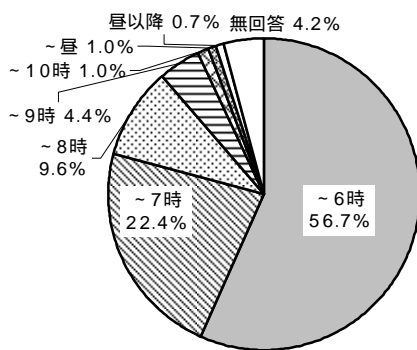
- 1) 台風18号の際、9月16日の午前5時05分、福井県に大雨特別警報が発令されました。あなたは、「大雨特別警報」が出されたことをご存知でしたか。



特別警報が発令されたことを84%の回答者が知っていました。

項目	人数 (割合)
知っていた	406人 (83.5%)
知らなかった	73人 (15.0%)
無回答	7人 (1.5%)
総数	486人

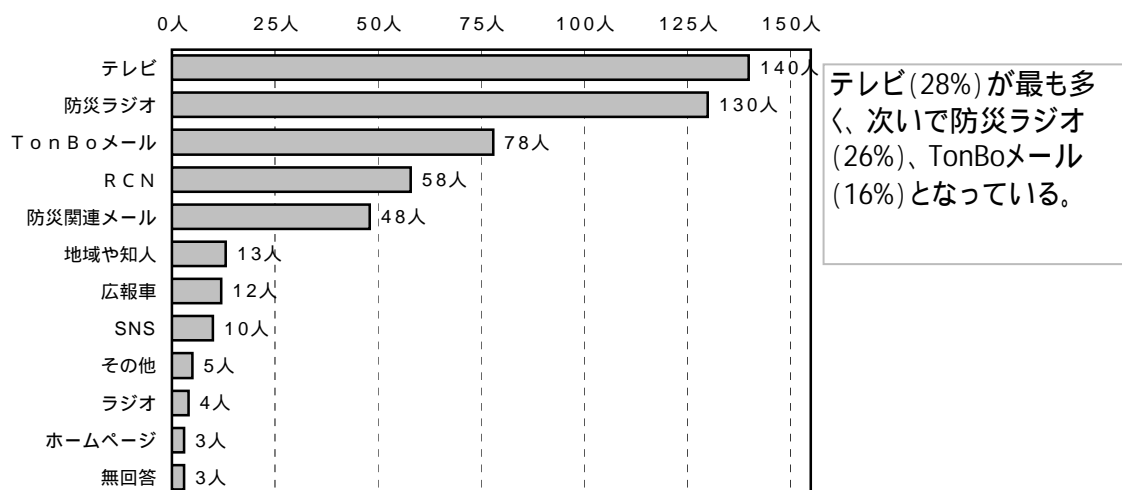
- 2) 1)で「知っていた」と回答された方にお尋ねします。「特別警報」を最初に知ったのはいつ頃ですか。



特別警報を知ったタイミングは、発令から1時間以内が58%、2時間以内が79%となっている。

項目	人数 (割合)
当日午前5時すぎから午前6時ごろまで	230人 (56.7%)
当日午前6時すぎから午前7時ごろまで	91人 (22.4%)
当日午前7時すぎから午前8時ごろまで	39人 (9.6%)
当日午前8時すぎから午前9時ごろまで	18人 (4.4%)
当日午前9時すぎから午前10時ごろまで	4人 (1.0%)
当日午前10時頃から昼ごろまで	4人 (1.0%)
当日の昼より後	3人 (0.7%)
無回答	17人 (4.2%)
総数	406人

3) 「特別警報」が発令されたことを初めに知ったのはどのような情報源ですか。



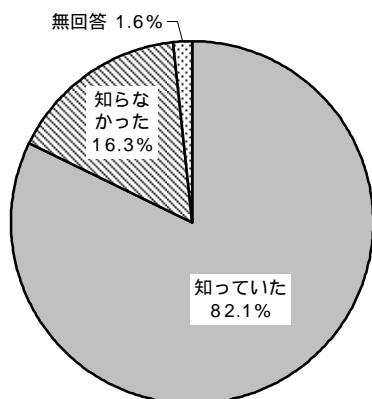
項目	人数 (割合)
(NHKなど)テレビの放送	140人 (27.8%)
防災情報受信機(防災ラジオ)	130人 (25.8%)
敦賀市防災情報配信メール(TonBoメール)	78人 (15.5%)
ケーブルテレビ(RCN)の防災放送チャンネル	58人 (11.5%)
(緊急速報メールなど)の防災関連メール	48人 (9.5%)
知人や地域の人からの連絡や情報提供	13人 (2.6%)
市役所や消防の広報車	12人 (2.4%)
ツイッターなどのソーシャルネットワークサービス(SNS)	10人 (2.0%)
その他	5人 (1.0%)
(一般の)ラジオ放送	4人 (0.8%)
敦賀市のホームページ	3人 (0.6%)
無回答	3人 (0.5%)
総数	504人

複数選択した意見も反映されているため、合計が406人にならない。

4 . 台風18号当日の「避難勧告」把握状況

問7. 「避難勧告」について

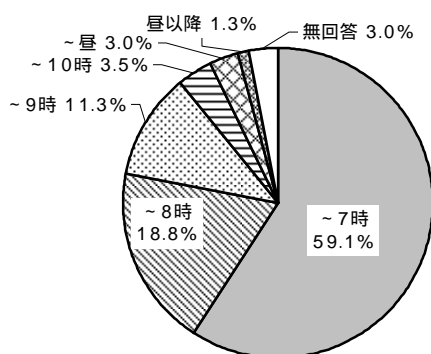
- 1) 台風18号の際、敦賀市では、9月16日の午前5時25分に笹の川左右岸の地区、午前6時40分に櫛林・砂流地区、及び午前8時50分に市内全域に避難勧告を発令しました。あなたは、「避難勧告」が出されたことをご存知でしたか。



避難勧告が発令されたことを82%の回答者が知っていた。

項目	人数 (割合)
知っていた	399人 (82.1%)
知らなかった	79人 (16.3%)
無回答	8人 (1.6%)
総数	486人

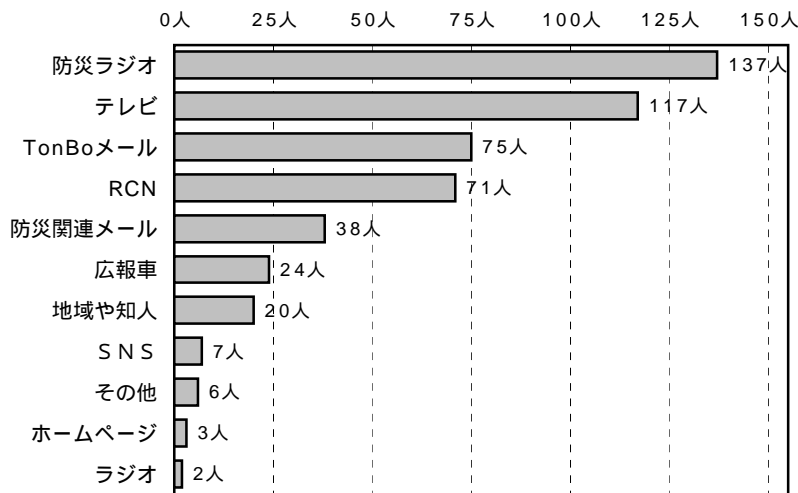
- 2) 1)で「知っていた」と回答された方にお尋ねします。「避難勧告」を最初に知ったのはいつ頃ですか。



避難勧告を知ったタイミングは、午前の7時ごろまでが59%、午前8時ごろまでが78%となっている。

項目	人数 (割合)
当日午前5時半すぎから午前7時ごろまで	236人 (59.1%)
当日午前7時すぎから午前8時ごろまで	75人 (18.8%)
当日午前8時すぎから午前9時ごろまで	45人 (11.3%)
当日午前9時すぎから午前10時ごろまで	14人 (3.5%)
当日午前10時頃から昼ごろまで	12人 (3.0%)
当日の昼より後	5人 (1.3%)
無回答	12人 (3.0%)
総数	399人

3) 「避難勧告」が発令されたことを初めに知ったのは、どのような情報源でしたか。



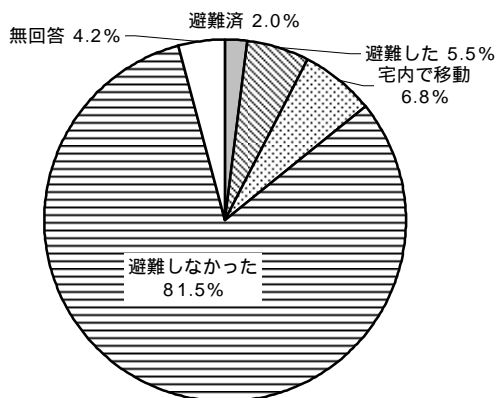
防災ラジオ(27%)が最も多く、次いでテレビ(23%)、TonBoメール(15%)、ケーブルテレビ(14%)となっている。

項目	人数 (割合)
防災情報受信機(防災ラジオ)	137人 (27.4%)
(NHKなど)テレビ放送	117人 (23.4%)
敦賀市防災情報配信メール(TonBoメール)	75人 (15.0%)
ケーブルテレビ(RCN)の防災放送チャンネル	71人 (14.2%)
(緊急速報メールなど)の防災関連メール	38人 (7.6%)
市役所や消防の広報車	24人 (4.8%)
知人や地域の人からの連絡や情報提供	20人 (4.0%)
ツイッターなどのソーシャルネットワークサービス(SNS)	7人 (1.4%)
その他	6人 (1.2%)
敦賀市のホームページ	3人 (0.6%)
(一般の)ラジオ放送	2人 (0.4%)
総数	500人

複数選択した意見も反映されているため、合計が399人にならない。

問8. 問7 1)にて、「知っていた」と回答した方にお尋ねします。

あなたは、避難勧告が出たことを知った後、どのように行動しましたか。



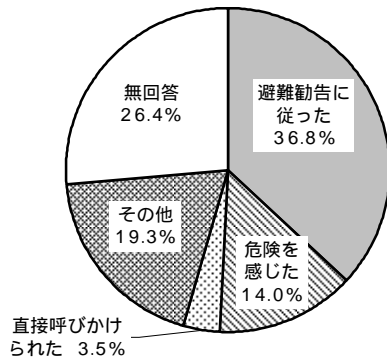
避難行動を取ったのは自宅以外への避難が6%、自宅内での避難が7%となっており、合わせて12%となっている。

項目	人数 (割合)
すでに自宅から他の場所へ避難していた	8人 (2.0%)
自宅から他の場所へ避難した	22人 (5.5%)
自宅でより安全と思う場所に移動した	27人 (6.8%)
特に避難行動を取らなかった	325人 (81.5%)
無回答	17人 (4.2%)
総数	399人

5 . 台風18号当日の避難行動

問9. 問8にて、「すでに自宅から他の場所へ避難していた」「自宅から他の場所へ避難した」「自宅より安全と思う場所に移動した」と回答した方にお尋ねします。

あなたが避難行動を取った理由はなぜですか。



避難勧告に従おうと思ったが37%と最も多くなっている。

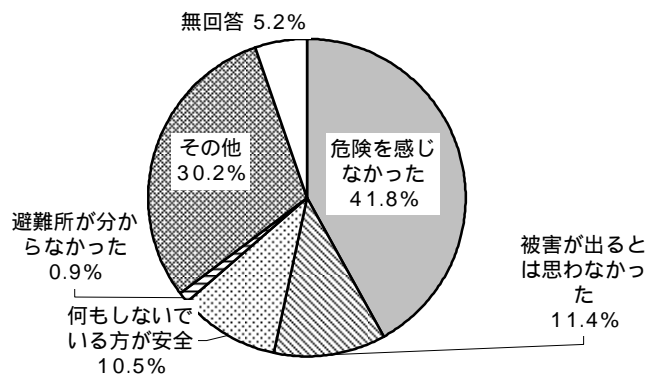
その他の自由記載 6件

- ・河川状況を確認したから(2件)
- ・車が心配だった(1件)
- ・その他(3件)

項目	人数 (割合)
避難勧告が出たので、それに従おうと思ったから	21人 (36.8%)
各種の気象情報から、洪水や土砂崩れの危険を感じたから	8人 (14.0%)
近隣の人や消防団から避難を直接呼びかけられたから	2人 (3.5%)
地区内が浸水し始めたから	0人 (0.0%)
その他	11人 (19.3%)
無回答	15人 (26.4%)
総数	57人

問10. 問8にて、「特に避難行動を取らなかった」と回答した方にお尋ねします。

あなたが避難行動を取らなかった理由はなぜですか。



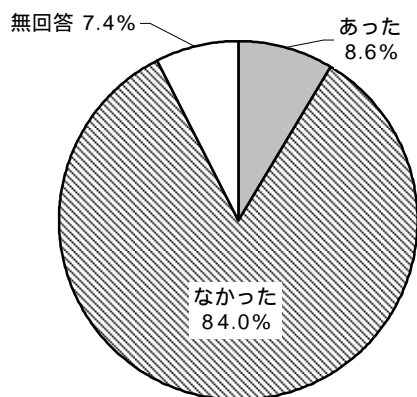
危険を感じなかったが42%と最も多く、次いでその他、過去の台風から判断となっている。

その他の自由記載 44件

- ・居住地の立地環境、建物特性を踏まえて自己判断した(12件)
- ・各種関連情報から自己判断した(10件)
- ・避難地域ではないと思っていたため(7件)
- ・勤務中だったため(6件)
- ・周囲が避難行動を取る様子が見えなかったため(3件)
- ・外へ出ることの危険性を感じたため(2件)
- ・その他(4件)

項目	人数 (割合)
各種の気象情報から洪水や土砂崩れの危険を感じなかったから	136人 (41.8%)
過去の台風被害から判断して被害が出るとは思わなかったから	37人 (11.4%)
何もしていない方が安全だと思ったから	34人 (10.5%)
避難所がどこにあるかわからなかったから	3人 (0.9%)
その他	98人 (30.2%)
無回答	17人 (5.2%)
総数	325人

問11. あなたの地域では、地域住民同士による避難活動の支援（避難の呼びかけ、避難活動の支援など）がありましたか。あった場合、その具体的な内容をお書きください。



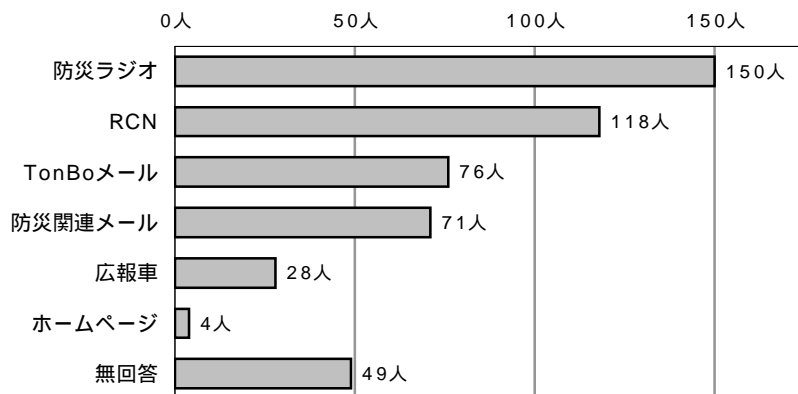
84%の回答者が避難活動の支援がなかったとしているものの、9%の回答者は何らかの避難活動支援があったと回答している。

項目	人数（割合）
あった	42人（8.6%）
なかった	408人（84.0%）
無回答	36人（7.4%）
総数	486人

6. 台風18号当日の情報収集

問12. 当時、台風等気象の情報を収集する際に、最も有効だった情報源はどれですか。
A、Bそれぞれのグループからひとつずつ選んでください。

Aグループ

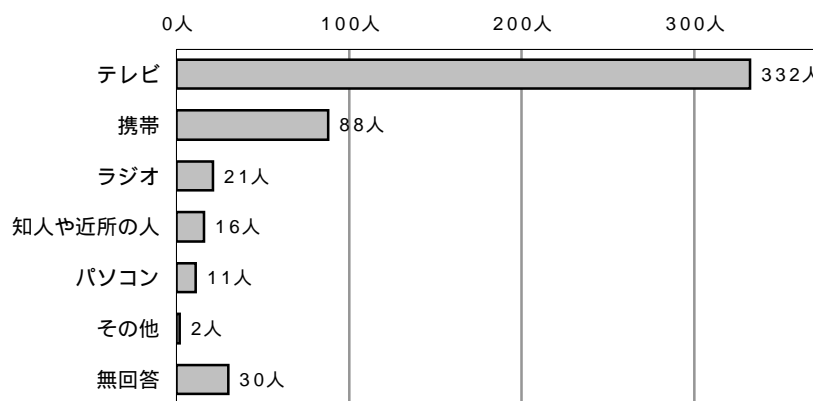


防災ラジオが30%と最も多く、次いでケーブルテレビ(24%)となっている。

項目	人数（割合）
防災情報受信機(防災ラジオ)	150人（30.2%）
ケーブルテレビ(RCN)の防災放送チャンネル	118人（23.8%）
敦賀市防災情報配信メール(TonBoメール)	76人（15.3%）
(緊急速報メールなど)の防災関連メール	71人（14.3%）
市役所や消防の広報車	28人（5.6%）
敦賀市のホームページ	4人（0.8%）
無回答	49人（10.0%）
総数	496人

複数選択した意見も反映されているため、合計が486人にならない。

Bグループ

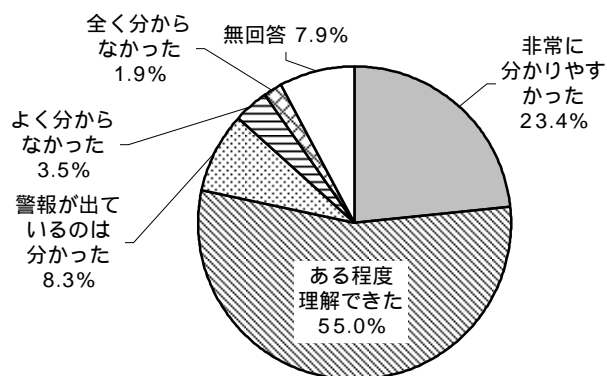


テレビが66%と最も多く、次いでスマートフォン・携帯電話(18%)となっている。

項目	人数 (割合)
テレビ	332人 (66.4%)
スマートフォン又は携帯電話	88人 (17.6%)
ラジオ	21人 (4.2%)
知人や地域の人からの連絡や情報提供	16人 (3.2%)
パソコン	11人 (2.2%)
その他	2人 (0.4%)
無回答	30人 (6.0%)
総数	500人

複数選択した意見も反映されているため、合計が486人にならない。

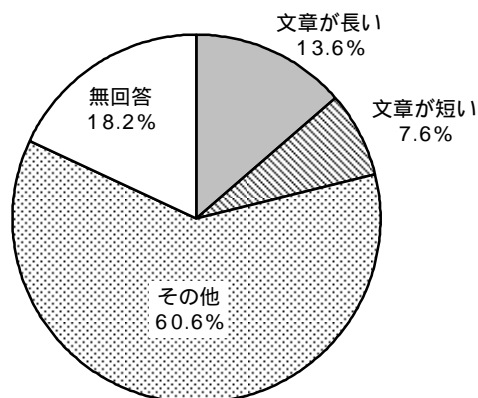
問13. 今回の台風18号では、敦賀市からの避難勧告等の防災情報をケーブルテレビ(RCN)防災放送チャンネル、敦賀市防災情報配信メール(TonBoメール)、防災情報受信機(防災ラジオ)、広報車などを活用し、お知らせを行いました。お知らせした情報については、分かりやすかったですか。



非常に分かりやすかった、ある程度理解できたで78%となっている。

項目	人数 (割合)
非常に分かりやすかった	113人 (23.4%)
ある程度理解できた	265人 (55.0%)
内容はよく分からなかったが、何らかの警報等が出ていることは分かった	40人 (8.3%)
よく分からなかった	17人 (3.5%)
全く分からなかった	9人 (1.9%)
無回答	38人 (7.9%)
総数	482人

問14. 問13にて、「内容はよく分からなかったが何らかの警報等が出ていることは分かった」「よく分からなかった」「全く分からなかった」と回答した方にお尋ねします。
分からなかった理由はなんですか。



そのほか61%と最も高くなっている。文章が長い、文章が短い共に低い。

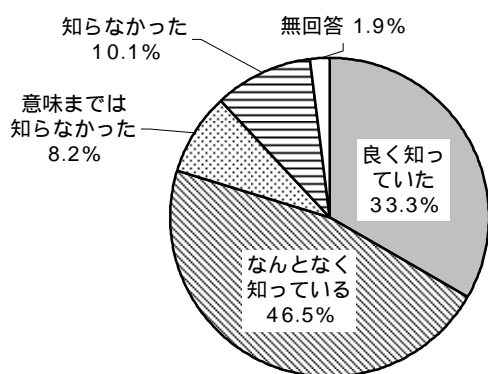
その他の自由記載 17件

- ・警報が出ていること自体知らなかった(寝ていた、音が聞こえなかった等)(7件)
- ・家にいなかった(3件)
- ・その他(質問の回答になっていない)(7件)

項目	人数 (割合)
文章が長すぎて分からなかった	9人 (13.6%)
文章が短すぎて分からなかった	5人 (7.6%)
その他	40人 (60.6%)
無回答	12人 (18.2%)
総数	66人

7. 防災関連情報についての把握状況

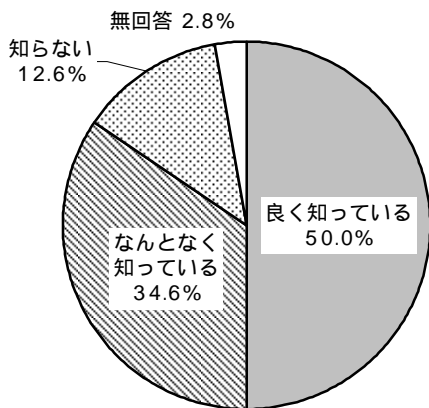
問15. 気象庁はこれまで、大雨、地震、津波、高潮などにより重大な災害の起こるおそれがある時に、警報を発表して警戒を呼びかけていました。これに加え、平成25年8月30日から、この警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、新たに「**特別警報**」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けています。
あなたは「**特別警報**」についてご存知ですか。



良く知っている、なんとなく知っているが80%となっている。

項目	人数 (割合)
良く知っていた	162人 (33.3%)
なんとなく知っていた	226人 (46.5%)
聞いたことあるが意味まで知らなかった	40人 (8.2%)
知らなかった(初めて知った)	49人 (10.1%)
無回答	9人 (1.9%)
総数	486人

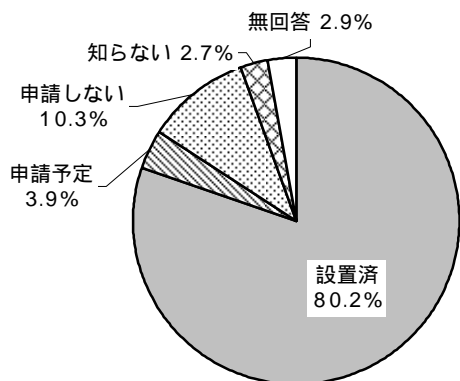
問16. あなたはお住まいの近くの避難所をご存知ですか。



良く知っている、なんとなく知っているが85%となっている。

項目	人数 (割合)
良く知っている	243人 (50.0%)
なんとなく知っている	168人 (34.6%)
知らない	61人 (12.6%)
無回答	14人 (2.8%)
総数	486人

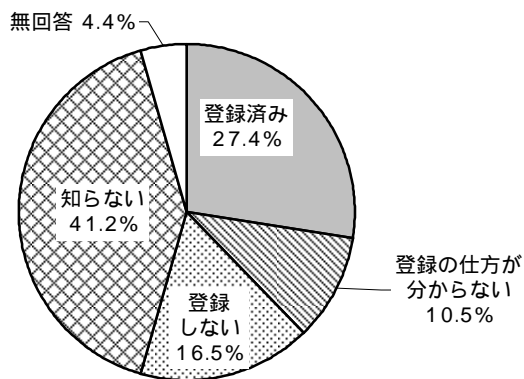
問17. あなたは防災情報受信機（防災ラジオ）をご存知ですか。



設置しているが80%。また知っているが94%となっている。

項目	人数 (割合)
知っており設置もしている	390人 (80.2%)
知っており今後申請をする予定	19人 (3.9%)
知っているがあえて申請していない	50人 (10.3%)
知らない	13人 (2.7%)
無回答	14人 (2.9%)
総数	486人

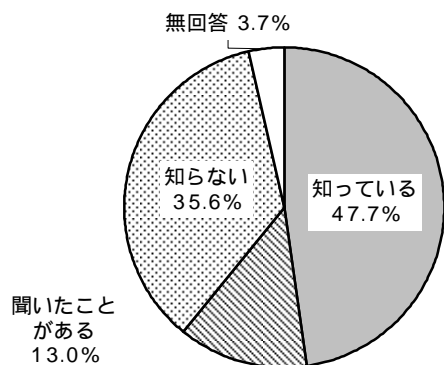
問18. あなたは敦賀市防災情報配信メール(TonBoメール)をご存知ですか。



知っているが54%、知らないが41%となっている。また登録しているが27%となっている。

項目	人数 (割合)
知っており登録もしている	133人 (27.4%)
知っているが登録の仕方がわからない	51人 (10.5%)
知っているがあえて登録していない	80人 (16.5%)
知らない	200人 (41.2%)
無回答	22人 (4.4%)
総数	486人

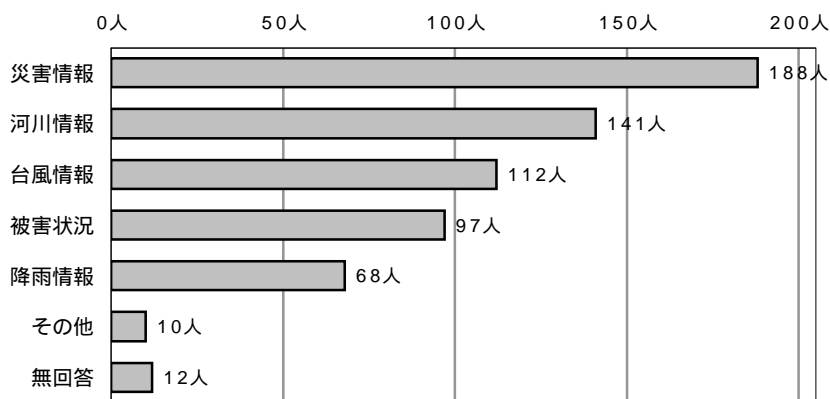
問19. あなたは緊急速報メール(エリアメールなど)をご存知ですか



知っているが48%となっている。

項目	人数 (割合)
知っている	232人 (47.7%)
聞いたことはあるが内容は知らない	63人 (13.0%)
知らない	173人 (35.6%)
無回答	18人 (3.7%)
総数	486人

問20. もしあなたが避難等の行動をとる場合、最も参考となる情報は何だと考えますか。



市役所からの災害情報が最も多く30%、次いで河川情報となっている。

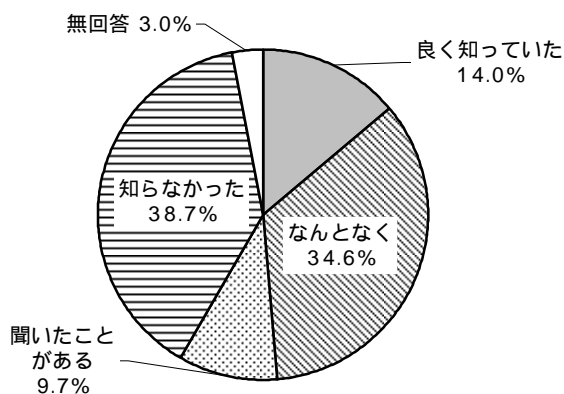
項目	人数 (割合)
市役所からの災害情報 (避難勧告など)	188人 (29.9%)
河川の情報 (河川水位や河川カメラの映像など)	141人 (22.5%)
台風の情報 (進路予測や暴風域など)	112人 (17.8%)
市内の被害に関する情報	97人 (15.4%)
降雨の情報 (実測降雨量、予測雨量など)	68人 (10.8%)
その他	10人 (1.6%)
無回答	12人 (54.4%)
総数	628人

1人の回答者が複数の回答を選択した意見も反映されている。

8. 災害時要援護者の状況

問21. 災害時要援護者についてお尋ねします

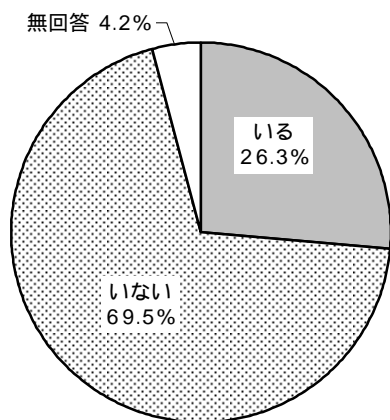
- 1) 高齢者、障がい者、外国人、乳幼児、妊産婦の方々など、災害時に手助けが必要な人たちを「災害時要援護者」といいますが、あなたは「災害時要援護者」についてご存知でしたか。



良く知っていた、なんとなく知っていたで、49%となっている。

項目	人数 (割合)
良く知っていた	68人 (14.0%)
なんとなく知っていた	168人 (34.6%)
聞いたことがあるが意味まで知らなかった	47人 (9.7%)
知らなかった (初めて知った)	188人 (38.7%)
無回答	15人 (3.0%)
総数	486人

2) ご同居の方に「災害時要援護者」はいますか。



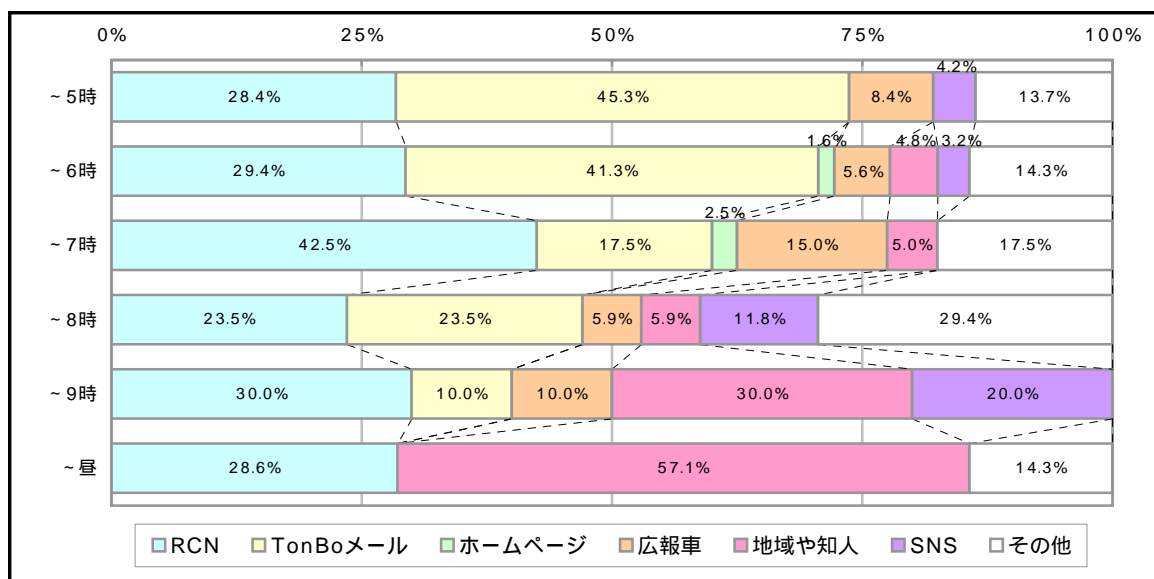
要援護者が同居者にいるのは26%の回答者となっている。

項目	人数 (割合)
いる	128人 (26.3%)
いない	338人 (69.5%)
無回答	20人 (4.2%)
総数	486人

クロス集計結果

1. 避難準備情報

問5 3) 「避難準備情報」を初めに知ったのはどのような情報源でしたか。〔時刻別〕



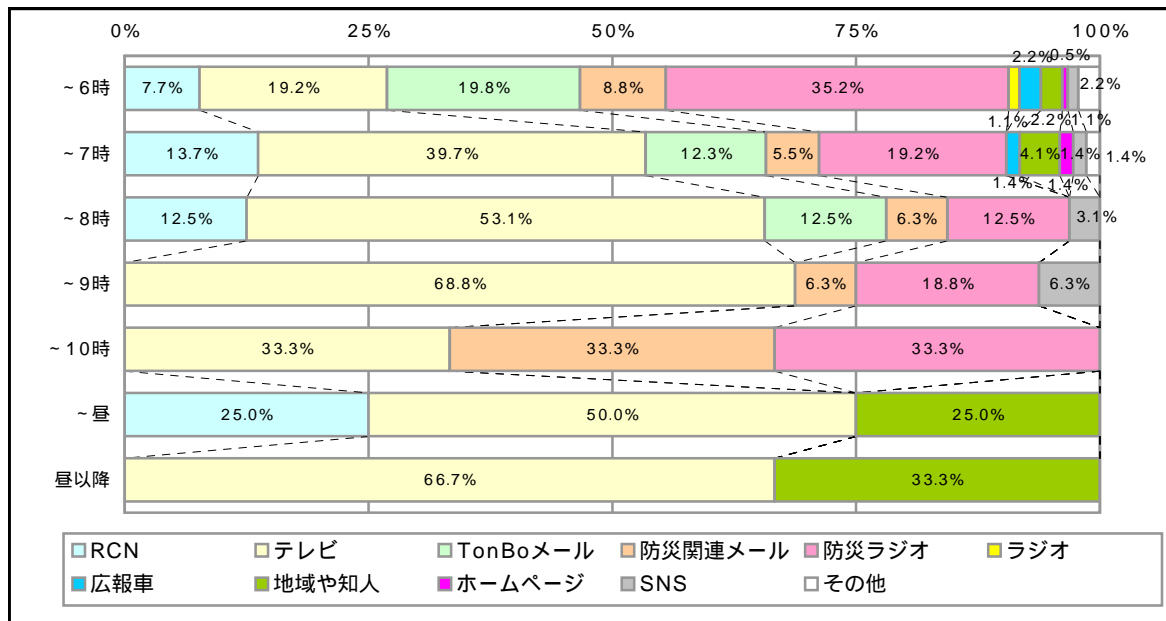
	RCNの 防災放送 チャンネル	敦賀市 防災情報 配信メール	敦賀市の ホーム ページ	市役所や 消防の 広報車	知人や地域の人 からの連絡や 情報提供
~5時	27人 (28.4%)	43人 (45.3%)	0人 (0.0%)	8人 (8.4%)	0人 (0.0%)
~6時	37人 (29.4%)	52人 (41.3%)	2人 (1.6%)	7人 (5.6%)	6人 (4.8%)
~7時	17人 (42.5%)	7人 (17.5%)	1人 (2.5%)	6人 (15.0%)	2人 (5.0%)
~8時	4人 (23.5%)	4人 (23.5%)	0人 (0.0%)	1人 (5.9%)	1人 (5.9%)
~9時	3人 (30.0%)	1人 (10.0%)	0人 (0.0%)	1人 (10.0%)	3人 (30.0%)
~昼	2人 (28.6%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	4人 (57.1%)
総数	90人 (30.5%)	107人 (36.3%)	3人 (1.0%)	23人 (7.8%)	16人 (5.4%)

	ソーシャル ネットワーク サービス	その他	総数
~5時	4人 (4.2%)	13人 (13.7%)	95人 (100.0%)
~6時	4人 (3.2%)	18人 (14.3%)	126人 (100.0%)
~7時	0人 (0.0%)	7人 (17.5%)	40人 (100.0%)
~8時	2人 (11.8%)	5人 (29.4%)	17人 (100.0%)
~9時	2人 (20.0%)	0人 (0.0%)	10人 (100.0%)
~昼	0人 (0.0%)	1人 (14.3%)	7人 (100.0%)
総数	12人 (4.1%)	44人 (14.9%)	295人

・早い時間帯においてTonBoメールの比率が高いことから即時性が高いことがわかる。
・RCNについては継続的な情報伝達効果が高いことがわかる。

2. 特別警報

問 6 3) 「特別警報」を初めに知ったのはどのような情報源でしたか。〔時刻別〕



	RCNの 防災放送 チャンネル	(NHKなどの) テレビ放送	敦賀市 防災情報 配信メール	防災関連 メール	防災情報 受信機 (防災ラジオ)
~6時	14人 (7.7%)	35人 (19.2%)	36人 (19.8%)	16人 (8.8%)	64人 (35.2%)
~7時	10人 (13.7%)	29人 (39.7%)	9人 (12.3%)	4人 (5.5%)	14人 (19.2%)
~8時	4人 (12.5%)	17人 (53.1%)	4人 (12.5%)	2人 (6.3%)	4人 (12.5%)
~9時	0人 (0.0%)	11人 (68.8%)	0人 (0.0%)	1人 (6.3%)	3人 (18.8%)
~10時	0人 (0.0%)	1人 (33.3%)	0人 (0.0%)	1人 (33.3%)	1人 (33.3%)
~昼	1人 (25.0%)	2人 (50.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
昼以降	0人 (0.0%)	2人 (66.7%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
総数	29人 (9.3%)	97人 (31.0%)	49人 (15.7%)	24人 (7.7%)	86人 (27.5%)

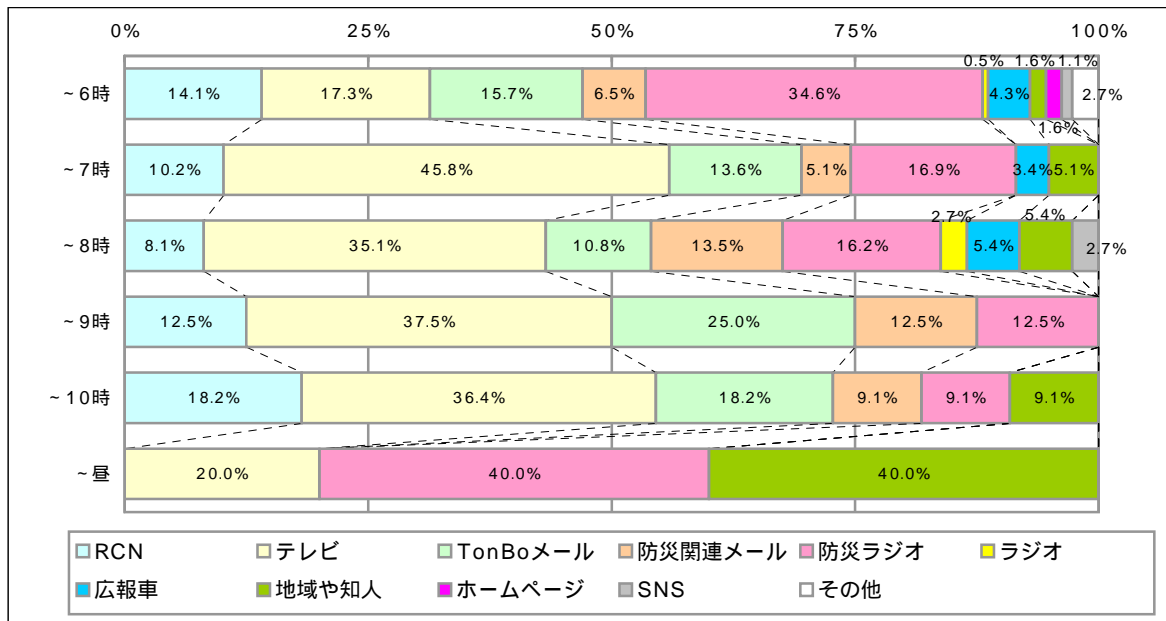
	(一般の) ラジオ放送	市役所や 消防の 広報車	知人や地域の人 からの連絡や 情報提供	敦賀市の ホームページ	ソーシャル ネットワー クサービス
~6時	2人 (1.1%)	4人 (2.2%)	4人 (2.2%)	1人 (0.5%)	2人 (1.1%)
~7時	0人 (0.0%)	1人 (1.4%)	3人 (4.1%)	1人 (1.4%)	1人 (1.4%)
~8時	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (3.1%)
~9時	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (6.3%)
~10時	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
~昼	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (25.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
昼以降	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (33.3%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
総数	2人 (0.6%)	5人 (1.6%)	9人 (2.9%)	2人 (0.6%)	5人 (1.6%)

	その他	総数
~6時	4人 (2.2%)	182人 (100.0%)
~7時	1人 (1.4%)	73人 (100.0%)
~8時	0人 (0.0%)	32人 (100.0%)
~9時	0人 (0.0%)	16人 (100.0%)
~10時	0人 (0.0%)	3人 (100.0%)
~昼	0人 (0.0%)	4人 (100.0%)
昼以降	0人 (0.0%)	3人 (100.0%)
総数	5人 (1.6%)	313人 (100.0%)

・(NHKなどの)テレビ放送が全体的に高い割合を占めている。
 ・避難準備警報の場合と比較し、RCNの割合が低く、防災ラジオが高くなっている。
 ・早い時間帯では、防災ラジオの割合が高くなっている。

3. 避難勧告

問7 3) 「避難勧告」を初めに知ったのはどのような情報源でしたか。〔時刻別〕



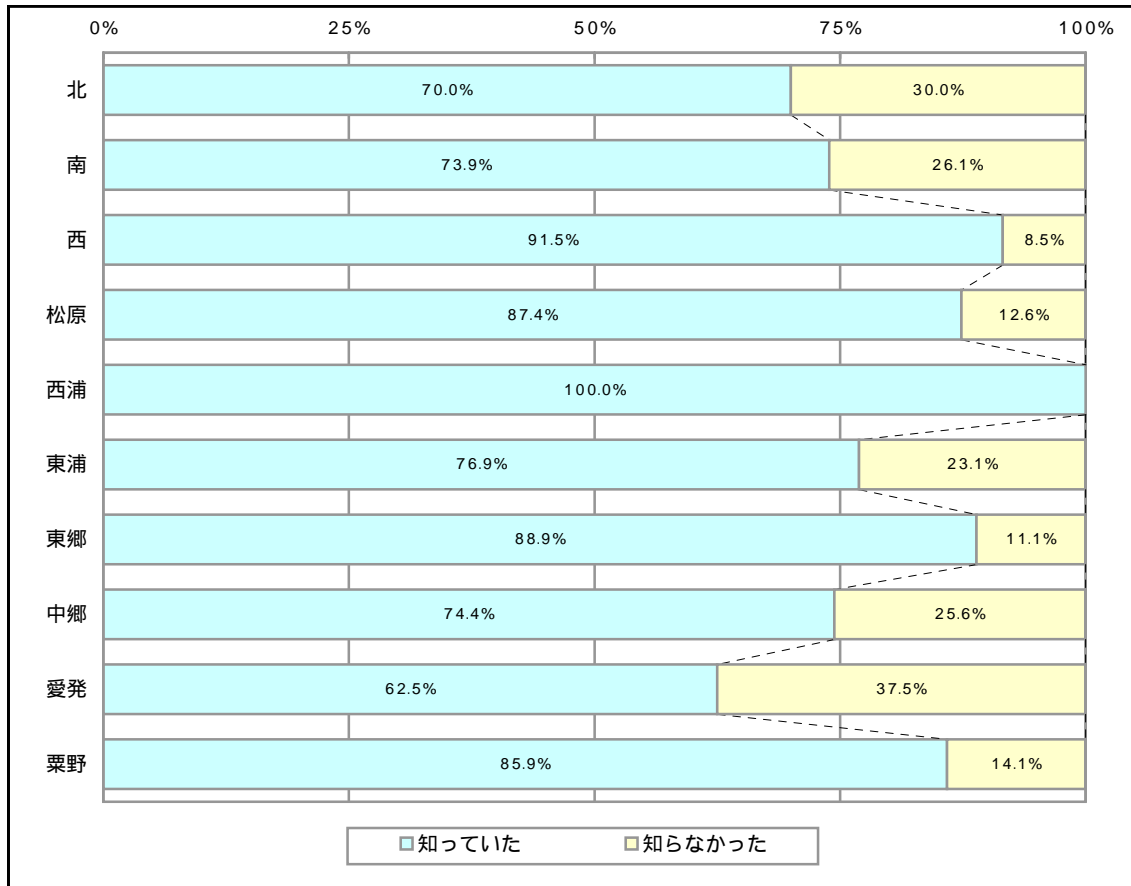
時刻	RCNの 防災放送 チャンネル	(NHKなどの) テレビ放送	敦賀市 防災情報 配信メール	防災関連 メール	防災情報 受信機 (防災ラジオ)
~6時	26人 (14.1%)	32人 (17.3%)	29人 (15.7%)	12人 (6.5%)	64人 (34.6%)
~7時	6人 (10.2%)	27人 (45.8%)	8人 (13.6%)	3人 (5.1%)	10人 (16.9%)
~8時	3人 (8.1%)	13人 (35.1%)	4人 (10.8%)	5人 (13.5%)	6人 (16.2%)
~9時	1人 (12.5%)	3人 (37.5%)	2人 (25.0%)	1人 (12.5%)	1人 (12.5%)
~10時	2人 (18.2%)	4人 (36.4%)	2人 (18.2%)	1人 (9.1%)	1人 (9.1%)
~昼	0人 (0.0%)	1人 (20.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	2人 (40.0%)
総数	38人 (12.5%)	80人 (26.2%)	45人 (14.8%)	22人 (7.2%)	84人 (27.5%)

時刻	(一般の) ラジオ放送	市役所や 消防の 広報車	知人や地域の人 からの連絡や 情報提供	敦賀市の ホームページ	ソーシャル ネットワーク サービス
~6時	1人 (0.5%)	8人 (4.3%)	3人 (1.6%)	3人 (1.6%)	2人 (1.1%)
~7時	0人 (0.0%)	2人 (3.4%)	3人 (5.1%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
~8時	1人 (2.7%)	2人 (5.4%)	2人 (5.4%)	0人 (0.0%)	1人 (2.7%)
~9時	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
~10時	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (9.1%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
~昼	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	2人 (40.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
総数	2人 (0.7%)	12人 (3.9%)	11人 (3.6%)	3人 (1.0%)	3人 (1.0%)

時刻	その他	総数
~6時	5人 (2.7%)	185人 (100.0%)
~7時	0人 (0.0%)	59人 (100.0%)
~8時	0人 (0.0%)	37人 (100.0%)
~9時	0人 (0.0%)	8人 (100.0%)
~10時	0人 (0.0%)	11人 (100.0%)
~昼	0人 (0.0%)	5人 (100.0%)
総数	5人 (1.6%)	305人 (100.0%)

・避難準備警報と同様に (NHKなどの) テレビ放送、RCNが高い割合を占めている。
・早い時間帯 (~6時) では、防災ラジオの割合が高くなっている。

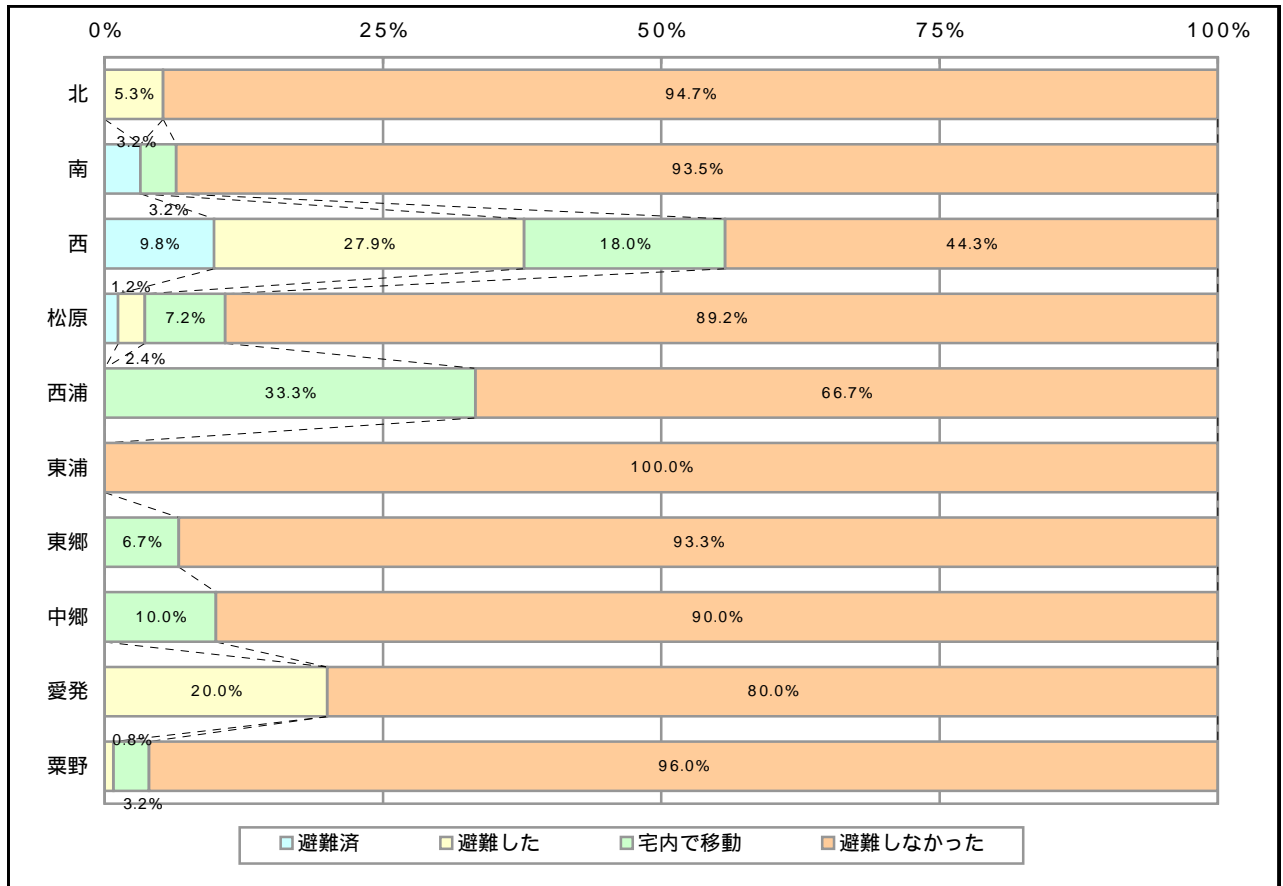
問 7 1) 「避難勧告」が出されたことをご存知でしたか。〔地区別〕



	知っていた	知らなかった	総数
北地区	21人 (70.0%)	9人 (30.0%)	30人 (100.0%)
南地区	34人 (73.9%)	12人 (26.1%)	46人 (100.0%)
西地区	65人 (91.5%)	6人 (8.5%)	71人 (100.0%)
松原地区	83人 (87.4%)	12人 (12.6%)	95人 (100.0%)
西浦地区	4人 (100.0%)	0人 (0.0%)	4人 (100.0%)
東浦地区	10人 (76.9%)	3人 (23.1%)	13人 (100.0%)
東郷地区	16人 (88.9%)	2人 (11.1%)	18人 (100.0%)
中郷地区	32人 (74.4%)	11人 (25.6%)	43人 (100.0%)
愛発地区	5人 (62.5%)	3人 (37.5%)	8人 (100.0%)
粟野地区	128人 (85.9%)	21人 (14.1%)	149人 (100.0%)
総数	398人 (83.4%)	79人 (16.6%)	477人 (100.0%)

・知っていたと回答した割合が西地区、松原地区、粟野地区で特に高いことから、笹の川に対する危険性の認識が高かったことがわかる。

問8 「避難勧告」が出た後、どのように行動しましたか。〔地区別〕

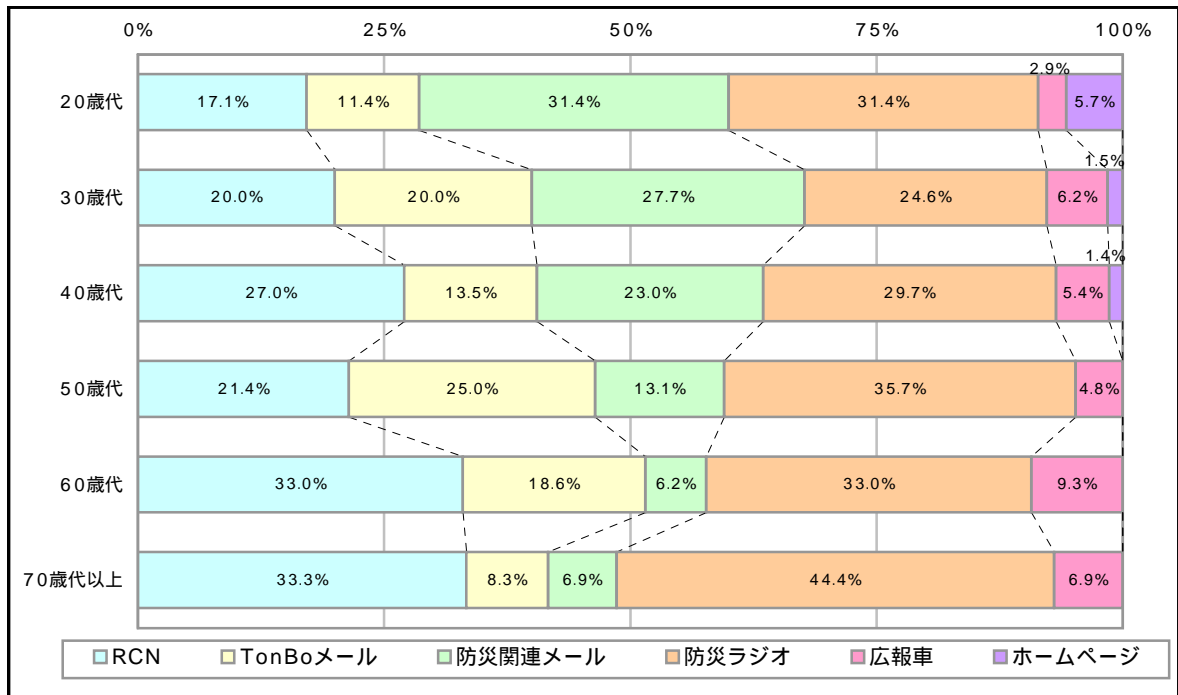


	すでに自宅から他の場所へ避難していた	自宅から他の場所へ避難した	自宅より安全と思う場所に移動した	特に避難行動を取らなかった	総数
北地区	0人 (0.0%)	1人 (5.3%)	0人 (0.0%)	18人 (94.7%)	19人 (100.0%)
南地区	1人 (3.2%)	0人 (0.0%)	1人 (3.2%)	29人 (93.5%)	31人 (100.0%)
西地区	6人 (9.8%)	17人 (27.9%)	11人 (18.0%)	27人 (44.3%)	61人 (100.0%)
松原地区	1人 (1.2%)	2人 (2.4%)	6人 (7.2%)	74人 (89.2%)	83人 (100.0%)
西浦地区	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (33.3%)	2人 (66.7%)	3人 (100.0%)
東浦地区	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	10人 (100.0%)	10人 (100.0%)
東郷地区	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (6.7%)	14人 (93.3%)	15人 (100.0%)
中郷地区	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	3人 (10.0%)	27人 (90.0%)	30人 (100.0%)
愛発地区	0人 (0.0%)	1人 (20.0%)	0人 (0.0%)	4人 (80.0%)	5人 (100.0%)
栗野地区	0人 (0.0%)	1人 (0.8%)	4人 (3.2%)	120人 (96.0%)	125人 (100.0%)
総数	8人 (2.1%)	22人 (5.8%)	27人 (7.1%)	325人 (85.1%)	382人 (100.0%)

- ・西地区、愛発地区は、宅外への避難を実行した割合が高くなっている。
- ・自宅内を含め、西地区で避難行動を取った人の割合が高かった。

4 . 最も有効な情報源

問 1 2 最も有効だった情報源はどれですか。 Aグループ〔年齢層別〕

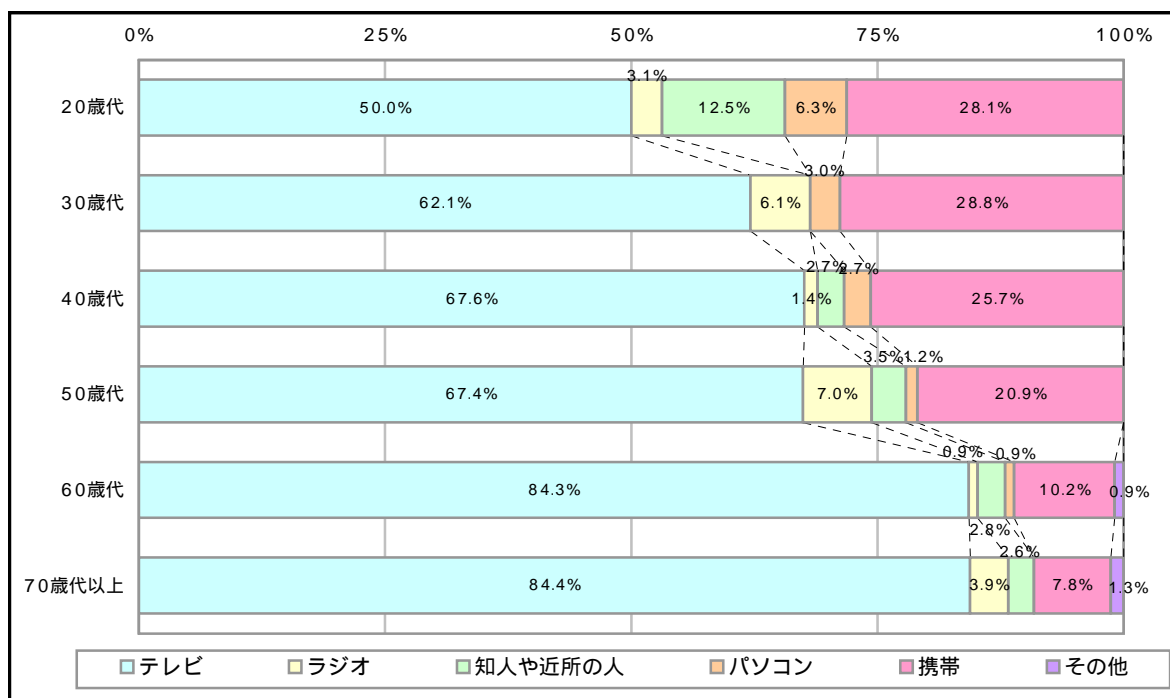


	RCN	TonBoメール	防災関連メール	防災ラジオ	広報車
20歳代	6人 (17.1%)	4人 (11.4%)	11人 (31.4%)	11人 (31.4%)	1人 (2.9%)
30歳代	13人 (20.0%)	13人 (20.0%)	18人 (27.7%)	16人 (24.6%)	4人 (6.2%)
40歳代	20人 (27.0%)	10人 (13.5%)	17人 (23.0%)	22人 (29.7%)	4人 (5.4%)
50歳代	18人 (21.4%)	21人 (25.0%)	11人 (13.1%)	30人 (35.7%)	4人 (4.8%)
60歳代	32人 (33.0%)	18人 (18.6%)	6人 (6.2%)	32人 (33.0%)	9人 (9.3%)
70歳代以上	24人 (33.3%)	6人 (8.3%)	5人 (6.9%)	32人 (44.4%)	5人 (6.9%)
総数	113人 (26.5%)	72人 (16.9%)	68人 (15.9%)	143人 (33.5%)	27人 (6.3%)

	ホームページ	総数
20歳代	2人 (5.7%)	35人 (100.0%)
30歳代	1人 (1.5%)	65人 (100.0%)
40歳代	1人 (1.4%)	74人 (100.0%)
50歳代	0人 (0.0%)	84人 (100.0%)
60歳代	0人 (0.0%)	97人 (100.0%)
70歳代以上	0人 (0.0%)	72人 (100.0%)
総数	4人 (0.9%)	427人 (100.0%)

・RCN、防災ラジオはいずれの年代においても高い割合を占めている。
 ・防災関連メールは、若年齢層の方が高い割合となる傾向となっている。

問 1 2 最も有効だった情報源はどれですか。 Bグループ〔年齢層別〕

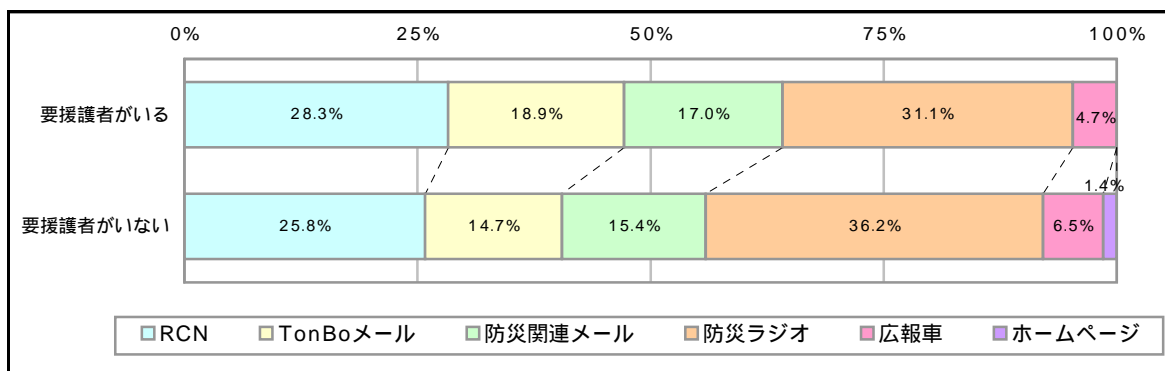


	テレビ	ラジオ	知人や近所の人	パソコン	携帯
20歳代	16人 (50.0%)	1人 (3.1%)	4人 (12.5%)	2人 (6.3%)	9人 (28.1%)
30歳代	41人 (62.1%)	4人 (6.1%)	0人 (0.0%)	2人 (3.0%)	19人 (28.8%)
40歳代	50人 (67.6%)	1人 (1.4%)	2人 (2.7%)	2人 (2.7%)	19人 (25.7%)
50歳代	58人 (67.4%)	6人 (7.0%)	3人 (3.5%)	1人 (1.2%)	18人 (20.9%)
60歳代	91人 (84.3%)	1人 (0.9%)	3人 (2.8%)	1人 (0.9%)	11人 (10.2%)
70歳代以上	65人 (84.4%)	3人 (3.9%)	2人 (2.6%)	0人 (0.0%)	6人 (7.8%)
総数	321人 (72.5%)	16人 (3.6%)	14人 (3.2%)	8人 (1.8%)	82人 (18.5%)

	その他	総数
20歳代	0人 (0.0%)	32人 (100.0%)
30歳代	0人 (0.0%)	66人 (100.0%)
40歳代	0人 (0.0%)	74人 (100.0%)
50歳代	0人 (0.0%)	86人 (100.0%)
60歳代	1人 (0.9%)	108人 (100.0%)
70歳代以上	1人 (1.3%)	77人 (100.0%)
総数	2人 (0.5%)	443人 (100.0%)

テレビの割合がいずれの世代においても高く、年齢層が高くなるにつれて割合が高まる傾向となっている。

問 1 2 最も有効だった情報源はどれですか。 Aグループ〔「災害時要援護者」同居状況別〕

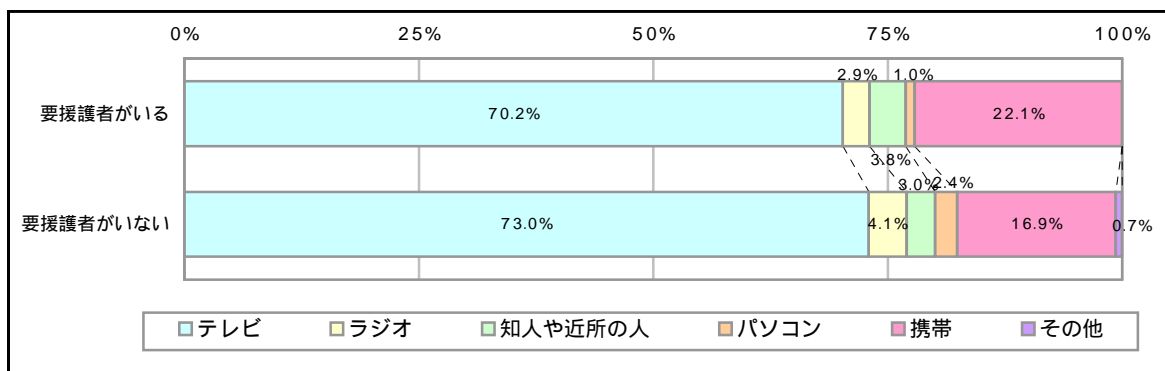


	RCN	TonBoメール	防災関連メール	防災ラジオ	広報車
要援護者がいる	30人 (28.3%)	20人 (18.9%)	18人 (17.0%)	33人 (31.1%)	5人 (4.7%)
要援護者がいない	72人 (25.8%)	41人 (14.7%)	43人 (15.4%)	101人 (36.2%)	18人 (6.5%)
総数	102人 (26.5%)	61人 (15.8%)	61人 (15.8%)	134人 (34.8%)	23人 (6.0%)

	ホームページ	総数
要援護者がいる	0人 (0.0%)	106人 (100.0%)
要援護者がいない	4人 (1.4%)	279人 (100.0%)
総数	4人 (1.0%)	385人 (100.0%)

・要援護者がいるかどうかで傾向に大きな違いはあまり見られない。
 ・若干ではあるが、要援護者がいる回答者は、RCN、TonBoメールの割合が高く、防災ラジオの割合が低くなっている。

問 1 2 最も有効だった情報源はどれですか。 Bグループ〔「災害時要援護者」同居状況別〕



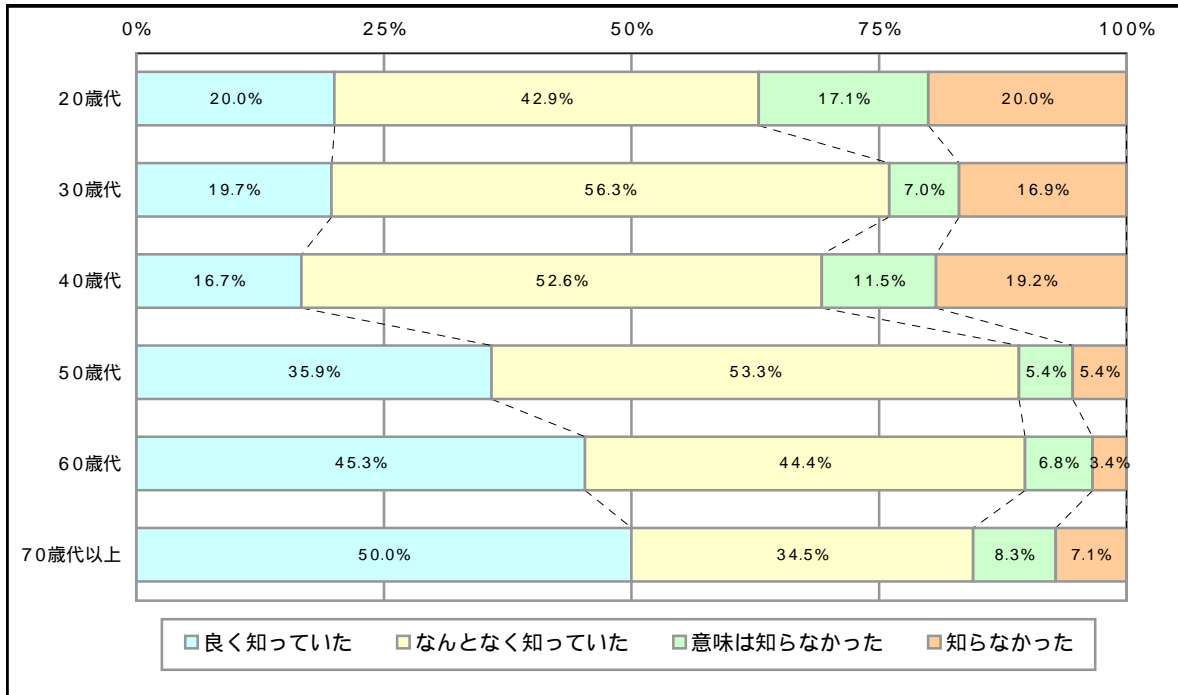
	テレビ	ラジオ	知人や近所の人	パソコン	携帯
要援護者がいる	73人 (70.2%)	3人 (2.9%)	4人 (3.8%)	1人 (1.0%)	23人 (22.1%)
要援護者がいない	216人 (73.0%)	12人 (4.1%)	9人 (3.0%)	7人 (2.4%)	50人 (16.9%)
総数	289人 (72.3%)	15人 (3.8%)	13人 (3.3%)	8人 (2.0%)	73人 (18.3%)

	その他	総数
要援護者がいる	0人 (0.0%)	104人 (100.0%)
要援護者がいない	2人 (0.7%)	296人 (100.0%)
総数	2人 (0.5%)	400人 (100.0%)

・要援護者がいるかどうかで傾向に大きな違いはあまり見られない。
 ・若干ではあるが、要援護者がいる回答者は、テレビの割合が低く、携帯の割合が高くなっている。

5 . 防災関連情報

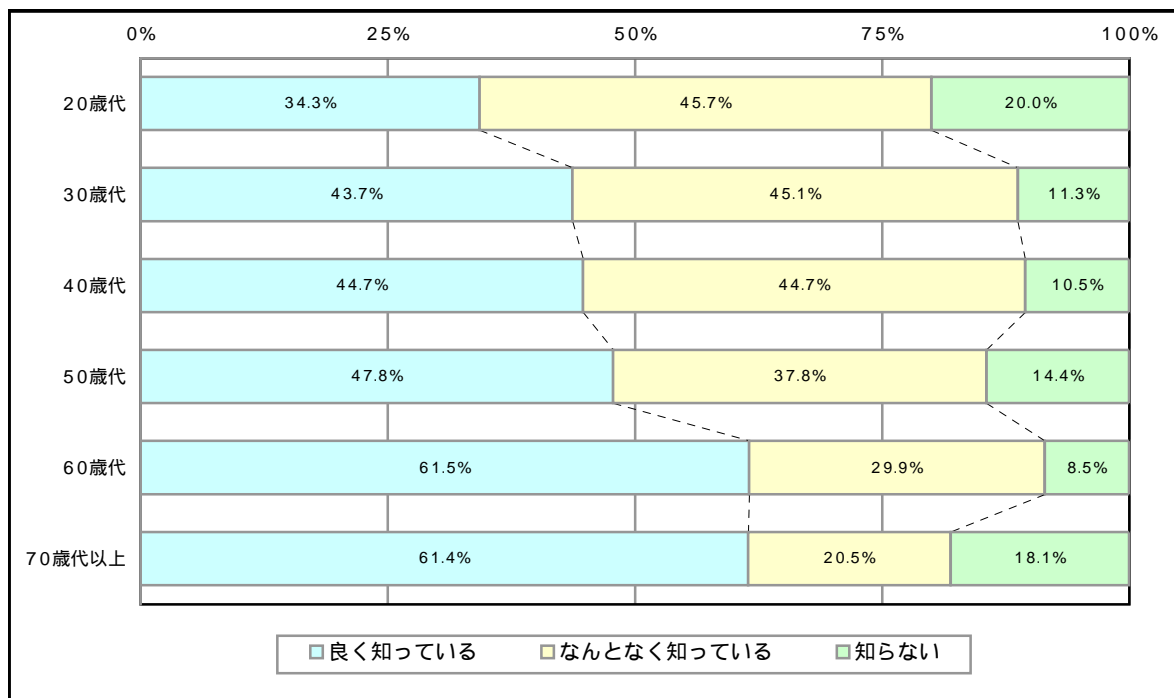
問15 「特別警報」についてご存知でしたか。〔年齢層別〕



	良く知っていた	なんとなく知っていた	意味は知らなかった	知らなかった	総数
20歳代	7人 (20.0%)	15人 (42.9%)	6人 (17.1%)	7人 (20.0%)	35人 (100.0%)
30歳代	14人 (19.7%)	40人 (56.3%)	5人 (7.0%)	12人 (16.9%)	71人 (100.0%)
40歳代	13人 (16.7%)	41人 (52.6%)	9人 (11.5%)	15人 (19.2%)	78人 (100.0%)
50歳代	33人 (35.9%)	49人 (53.3%)	5人 (5.4%)	5人 (5.4%)	92人 (100.0%)
60歳代	53人 (45.3%)	52人 (44.4%)	8人 (6.8%)	4人 (3.4%)	117人 (100.0%)
70歳代以上	42人 (50.0%)	29人 (34.5%)	7人 (8.3%)	6人 (7.1%)	84人 (100.0%)
総数	162人 (34.0%)	226人 (47.4%)	40人 (8.4%)	49人 (10.3%)	477人 (100.0%)

・若年齢層の方が、特別警報に対する認識が低くなっている。

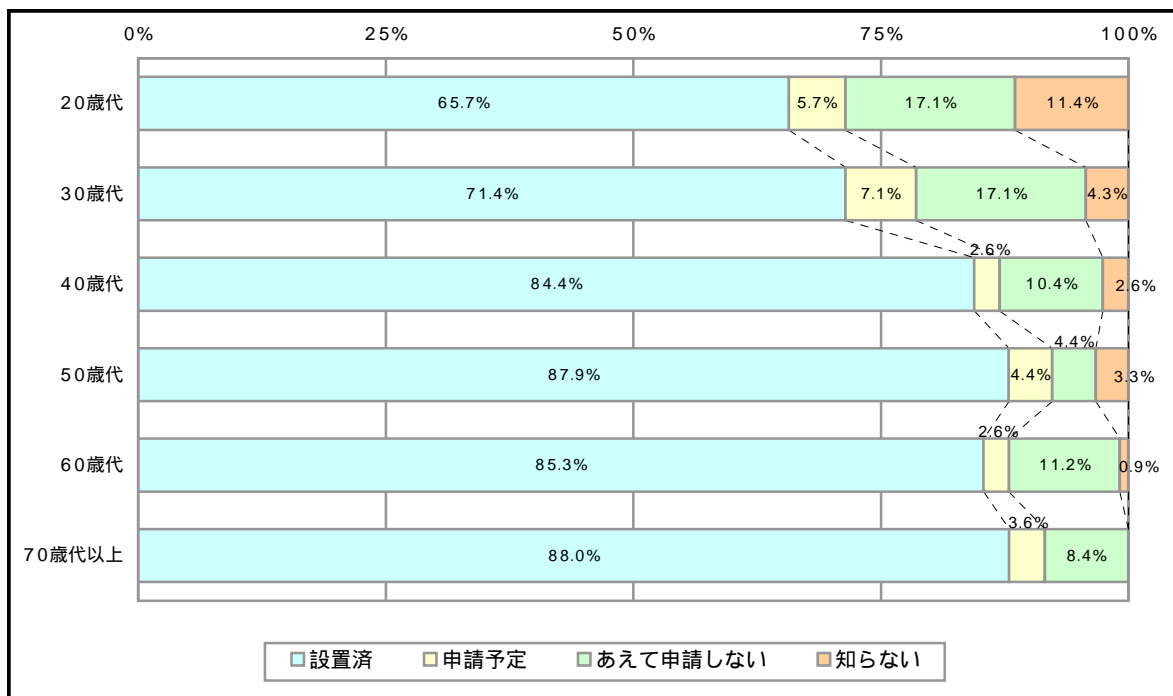
問16 近くの「避難所」をご存知ですか。〔年齢層別〕



	良く知っている	なんとなく知っている	知らない	総数
20歳代	12人 (34.3%)	16人 (45.7%)	7人 (20.0%)	35人 (100.0%)
30歳代	31人 (43.7%)	32人 (45.1%)	8人 (11.3%)	71人 (100.0%)
40歳代	34人 (44.7%)	34人 (44.7%)	8人 (10.5%)	76人 (100.0%)
50歳代	43人 (47.8%)	34人 (37.8%)	13人 (14.4%)	90人 (100.0%)
60歳代	72人 (61.5%)	35人 (29.9%)	10人 (8.5%)	117人 (100.0%)
70歳代以上	51人 (61.4%)	17人 (20.5%)	15人 (18.1%)	83人 (100.0%)
総数	243人 (51.5%)	168人 (35.6%)	61人 (12.9%)	472人 (100.0%)

・20歳代、70歳代以上が、避難所に対する認識が低くなっている。

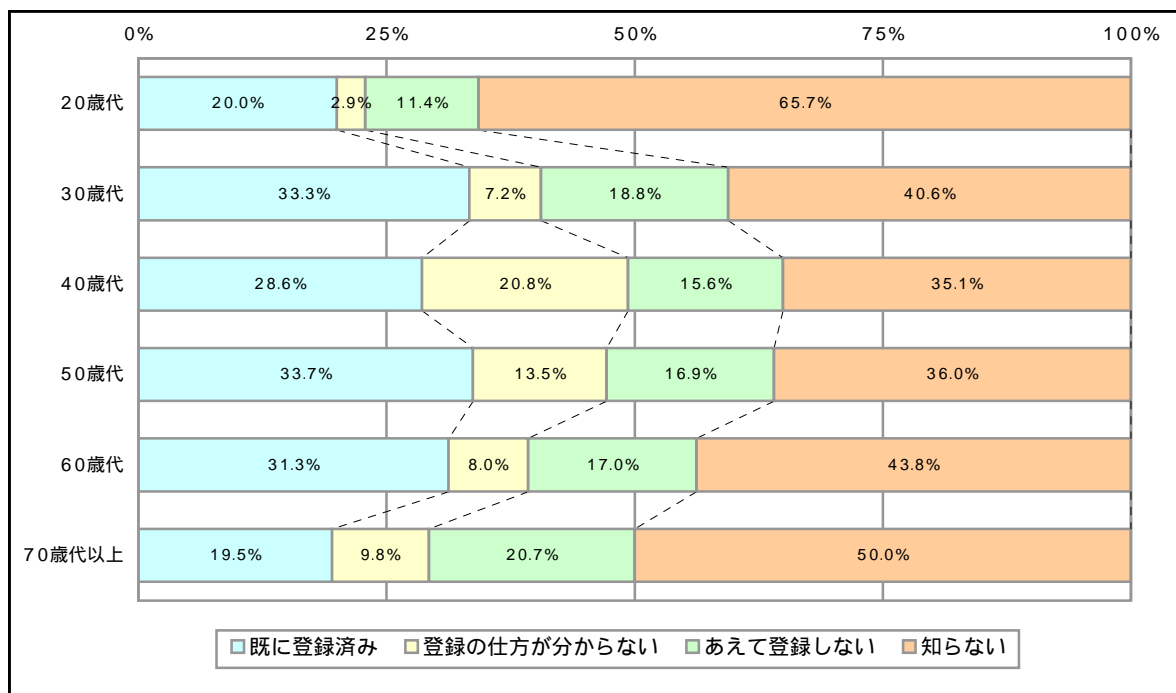
問 1 7 「防災情報受信機（防災ラジオ）をご存知ですか。〔年齢層別〕



	設置済	申請予定	あえて申請しない	知らない	総数
20歳代	23人 (65.7%)	2人 (5.7%)	6人 (17.1%)	4人 (11.4%)	35人 (100.0%)
30歳代	50人 (71.4%)	5人 (7.1%)	12人 (17.1%)	3人 (4.3%)	70人 (100.0%)
40歳代	65人 (84.4%)	2人 (2.6%)	8人 (10.4%)	2人 (2.6%)	77人 (100.0%)
50歳代	80人 (87.9%)	4人 (4.4%)	4人 (4.4%)	3人 (3.3%)	91人 (100.0%)
60歳代	99人 (85.3%)	3人 (2.6%)	13人 (11.2%)	1人 (0.9%)	116人 (100.0%)
70歳代以上	73人 (88.0%)	3人 (3.6%)	7人 (8.4%)	0人 (0.0%)	83人 (100.0%)
総数	390人 (82.6%)	19人 (4.0%)	50人 (10.6%)	13人 (2.8%)	472人 (100.0%)

・防災ラジオについての認知度は全体的に高いが、20歳代が少し低くなっている。
 ・若年齢の方が設置済みの割合が低く、あえて申請しないの割合が高くなっている。

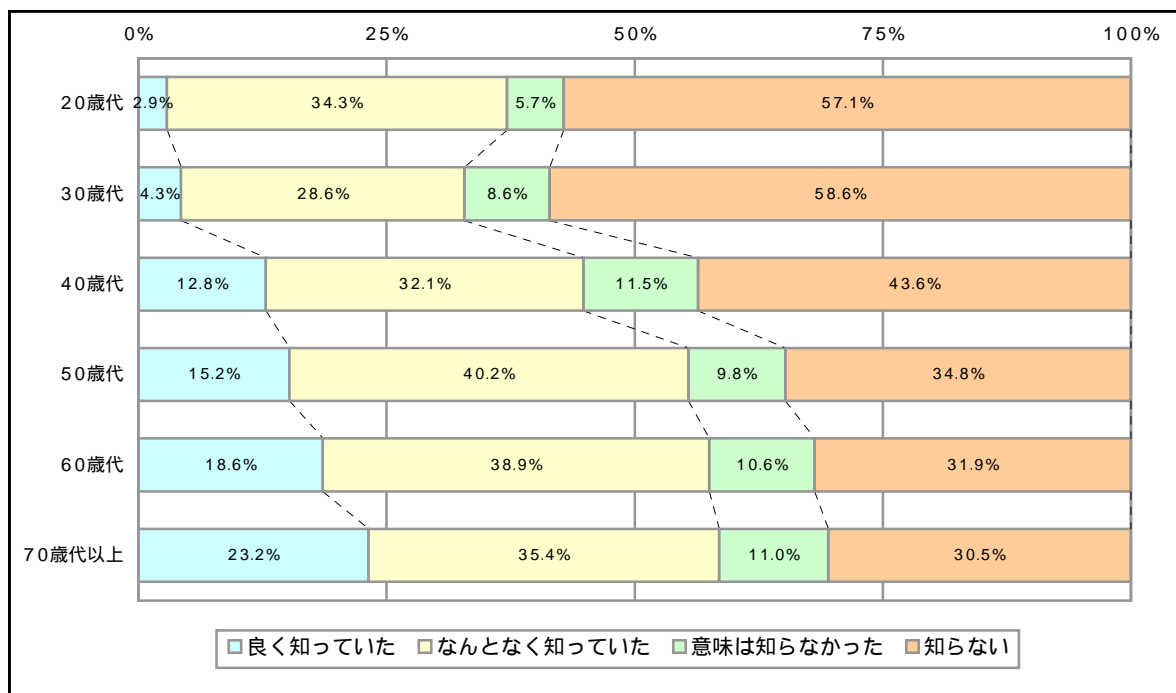
問18 「防災情報配信メール(TonBoメール)」をご存知ですか。〔年齢層別〕



	既に登録済み	登録の仕方が分からない	あえて登録しない	知らない	総数
20歳代	7人 (20.0%)	1人 (2.9%)	4人 (11.4%)	23人 (65.7%)	35人 (100.0%)
30歳代	23人 (33.3%)	5人 (7.2%)	13人 (18.8%)	28人 (40.6%)	69人 (100.0%)
40歳代	22人 (28.6%)	16人 (20.8%)	12人 (15.6%)	27人 (35.1%)	77人 (100.0%)
50歳代	30人 (33.7%)	12人 (13.5%)	15人 (16.9%)	32人 (36.0%)	89人 (100.0%)
60歳代	35人 (31.3%)	9人 (8.0%)	19人 (17.0%)	49人 (43.8%)	112人 (100.0%)
70歳代以上	16人 (19.5%)	8人 (9.8%)	17人 (20.7%)	41人 (50.0%)	82人 (100.0%)
総数	133人 (28.7%)	51人 (11.0%)	80人 (17.2%)	200人 (43.1%)	464人 (100.0%)

- ・特に20代については、他の世代と比べて登録済みの割合が低く、知らないの割合が高くなっている。
- ・30代以降については、登録の仕方が分からないの割合が高くなっている。

問 2 1 「災害時要援護者」についてご存知でしたか。〔年齢層別〕

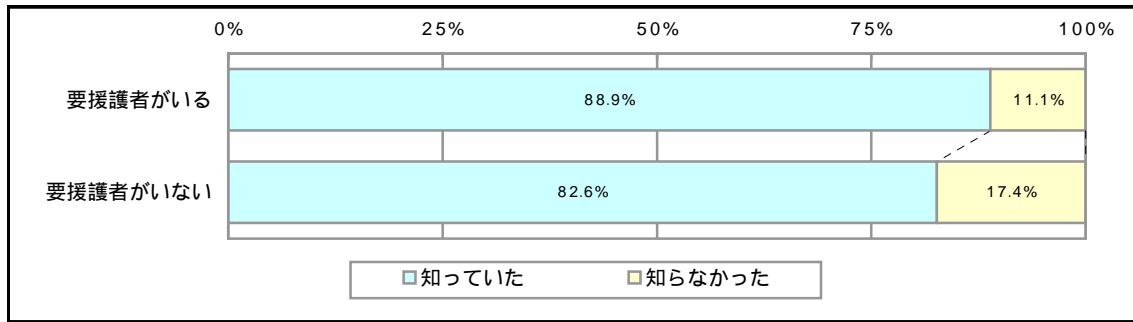


	良く知っていた	なんとなく知っていた	意味は知らなかった	知らない	総数
20歳代	1人 (2.9%)	12人 (34.3%)	2人 (5.7%)	20人 (57.1%)	35人 (100.0%)
30歳代	3人 (4.3%)	20人 (28.6%)	6人 (8.6%)	41人 (58.6%)	70人 (100.0%)
40歳代	10人 (12.8%)	25人 (32.1%)	9人 (11.5%)	34人 (43.6%)	78人 (100.0%)
50歳代	14人 (15.2%)	37人 (40.2%)	9人 (9.8%)	32人 (34.8%)	92人 (100.0%)
60歳代	21人 (18.6%)	44人 (38.9%)	12人 (10.6%)	36人 (31.9%)	113人 (100.0%)
70歳代以上	19人 (23.2%)	29人 (35.4%)	9人 (11.0%)	25人 (30.5%)	82人 (100.0%)
総数	68人 (14.5%)	167人 (35.5%)	47人 (10.0%)	188人 (40.0%)	470人 (100.0%)

・災害時に、「要援護者」として援護をうける可能性の高い高齢者ほど、認知度が高く、逆に援護する側となる可能性の高い若年齢層ほど、低くなっている。

6. 災害時要援護者同居者の状況

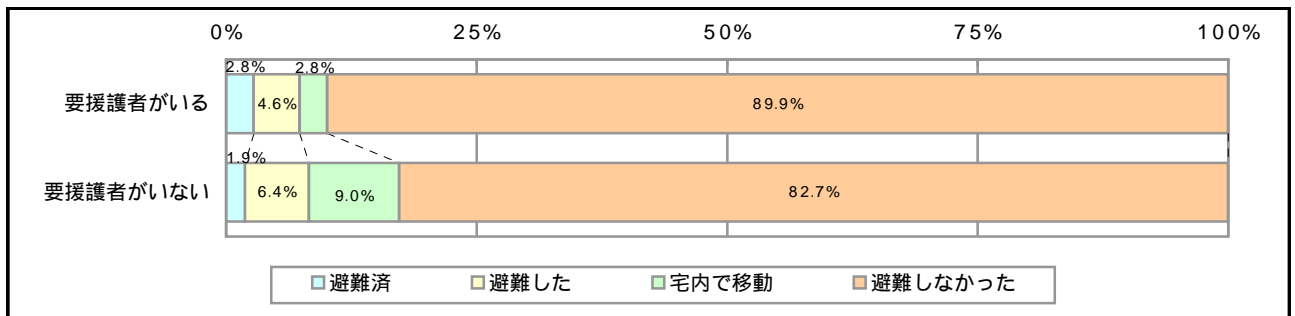
問7 1) 「避難勧告」が出されたことをご存知でしたか。〔「災害時要援護者」同居状況別〕



	知っていた	知らなかった	総数
要援護者がいる	112人 (88.9%)	14人 (11.1%)	126人 (100.0%)
要援護者がいない	276人 (82.6%)	58人 (17.4%)	334人 (100.0%)
総数	388人 (84.3%)	72人 (15.7%)	460人 (100.0%)

・要援護者がいる回答の方が避難勧告が出たことを知っている割合が高い。

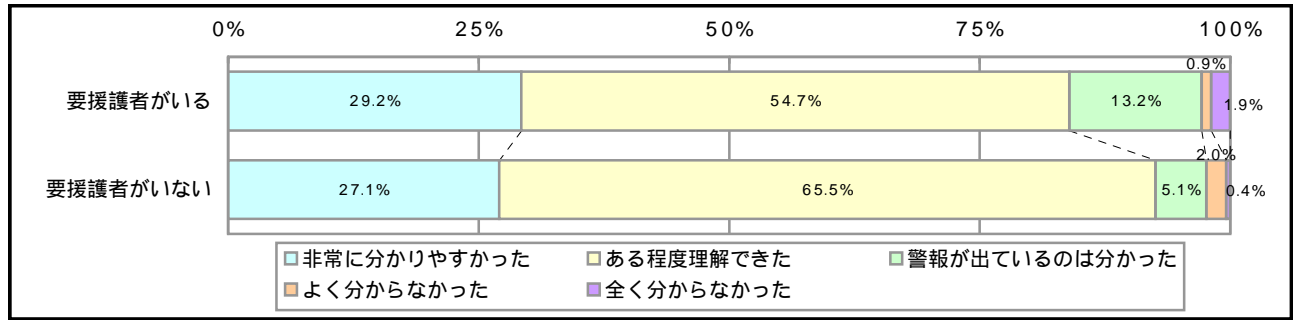
問8 「避難勧告」が出た後、どのように行動しましたか。〔「災害時要援護者」同居状況別〕



	すでに自宅から他の場所へ避難していた	自宅から他の場所へ避難した	自宅より安全と思う場所に移動した	特に避難行動を取らなかった	総数
要援護者がいる	3人 (2.8%)	5人 (4.6%)	3人 (2.8%)	98人 (89.9%)	109人 (100.0%)
要援護者がいない	5人 (1.9%)	17人 (6.4%)	24人 (9.0%)	220人 (82.7%)	266人 (100.0%)
総数	8人 (2.1%)	22人 (5.9%)	27人 (7.2%)	318人 (84.8%)	375人 (100.0%)

・宅外に避難した割合は、要援護者がいる場合もない場合も共に同じ割合となっていた。
 ・しかし、宅内で移動した割合は、要援護者がいる場合は低くなっている。

問13 お知らせした情報については、分かりやすかったですか。〔「災害時要援護者」同居状況別〕

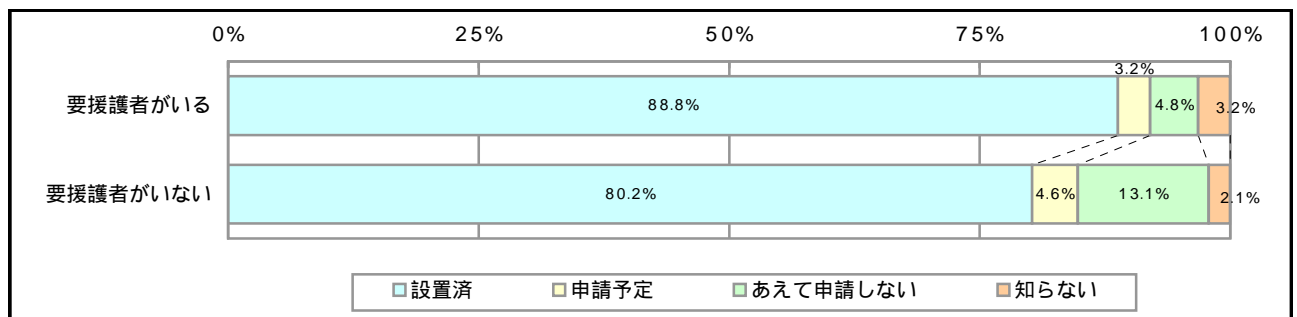


	非常に分かりやすかった	ある程度理解できた	警報が出ているのは分かった	よく分からなかった
要援護者がいる	31人 (29.2%)	58人 (54.7%)	14人 (13.2%)	1人 (0.9%)
要援護者がいない	69人 (27.1%)	167人 (65.5%)	13人 (5.1%)	5人 (2.0%)
総数	100人 (27.7%)	225人 (62.3%)	27人 (7.5%)	6人 (1.7%)

	全くわからなかった	総数
要援護者がいる	2人 (1.9%)	106人 (100.0%)
要援護者がいない	1人 (0.4%)	255人 (100.0%)
総数	3人 (0.8%)	361人 (100.0%)

・要援護者がいる回答者の方が、理解できた(非常にわかりやすかった、ある程度理解できた)割合が低く、また警報が出ているのは分かったと回答した割合が高い。

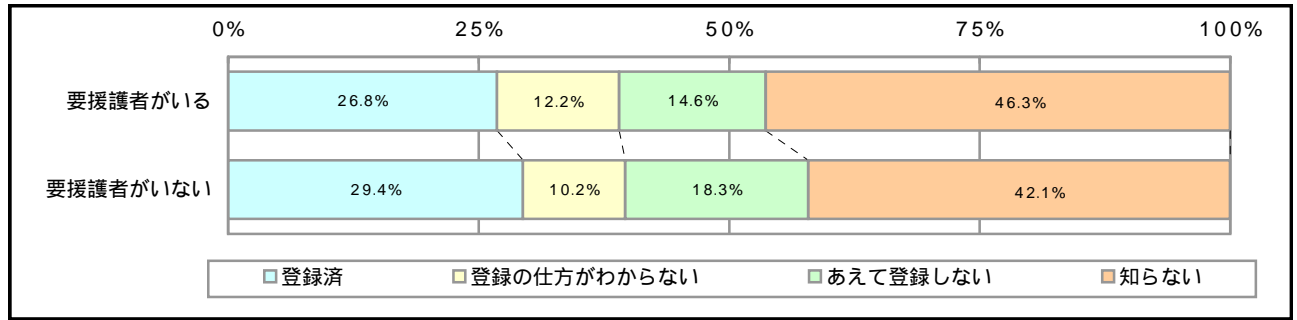
問17 防災情報受信機(防災ラジオ)をご存知ですか。〔「災害時要援護者」同居状況別〕



	設置済	申請予定	あえて申請しない	知らない	総数
要援護者がいる	111人 (88.8%)	4人 (3.2%)	6人 (4.8%)	4人 (3.2%)	125人 (100.0%)
要援護者がいない	264人 (80.2%)	15人 (4.6%)	43人 (13.1%)	7人 (2.1%)	329人 (100.0%)
総数	375人 (82.6%)	19人 (4.2%)	49人 (10.8%)	11人 (2.4%)	454人 (100.0%)

・要援護者がいる回答者の方が、設置している割合が高くなっている。

問 1 8 防災情報配信メール(TonBoメール)をご存知ですか。〔「災害時要援護者」同居状況別〕



	登録済	登録の仕方がわからない	あえて登録しない	知らない	総数
要援護者がいる	33人 (26.8%)	15人 (12.2%)	18人 (14.6%)	57人 (46.3%)	123人 (100.0%)
要援護者がいない	95人 (29.4%)	33人 (10.2%)	59人 (18.3%)	136人 (42.1%)	323人 (100.0%)
総数	128人 (28.7%)	48人 (10.8%)	77人 (17.3%)	193人 (43.3%)	446人 (100.0%)

・要援護者がいる場合の方が、登録済みの割合が低く、また登録の仕方がわからない、知らないの割合が高い。

IV. 自由意見

1. 災害情報の伝達方法や内容について

災害情報の伝達方法や内容について、ご自由にご意見をお書きください。

当該設問に対する回答としては、【情報伝達に関する意見】と【避難に関する意見】とに大きく分類することができる。

(1) 【情報伝達に関する意見】

- ・情報については、ラジオ等の機器、広報車等「情報伝達手段」に関する事、水位情報、避難情報といった「災害情報の内容」に関する事に分けることができる。
- ・「情報伝達手段」については、ラジオの音量などの運用上の意見が複数上がっていた。
- ・カメラの映像を判断材料に利用したとの意見が複数上がっており、数字や文字、言葉よりも映像の方が、影響力があったと思われる。
- ・「災害情報の内容」については、水位に関する情報を求める声も多く、カメラ映像とともに住民が欲していた災害情報であると思われる。
- ・広報車については、移動速度による影響、雨音による伝達距離の低下、高層マンション上層階への伝達など、阻害要因が多いことがわかる。
- ・「災害情報の内容」は、市内一律の情報ではなく、地区単位の情報を求める声や避難区域だけでなく原因を求める意見が上がっており、これらは住民が避難の判断を行う際の情報として不足を感じた点だと思われる。

(2) 【避難に関する意見】

- ・避難については、避難場所への経路や避難場所の設定などに対する意見、避難場所がわからないなどの意見があった。

(3) 主な意見の要約

以下のとおり、分野別に主な意見を集約した。

【情報伝達に関する意見】

<情報伝達機器について>

- ・ラジオの音が小さい
- ・ラジオの音量調整ができないか（子供いる）
- ・テレビ、防災ラジオ、携帯わかりやすい
- ・映像放送が遅く、不安だった
- ・カメラがわかりやすかった
- ・防災カメラの河川状況を見て避難の判断材料にした
- ・インターネットカメラの待ち時間が長く、見られなかった
- ・防災情報カメラを多数設置する

<水位情報について>

- ・カメラで水位がわかるようにして欲しい
- ・河川水位情報をリアルタイムでHPにアップ(掲載)して欲しい
- ・川の水位を知らせて欲しい

<広報車について>

- ・広報車の移動スピードが速く聞き取れなかった
- ・広報車が雨の音で聞こえない
- ・広報車はマンションの上層階では聞こえない

<災害情報の内容について>

- ・避難勧告情報で避難区域は理解できたが、原因などがわからなかった
- ・市域一律の情報でなく、地域別に情報を出して欲しい
- ・市内の被害状況がわからず、なぜ避難しなければいけないかわからなかった
- ・防災ラジオ 市単位でなく地区単位で詳細な情報を発信して欲しい
- ・災害状況は防災ラジオなどでよくわかるが、避難場所がわからない
- ・防災チャンネルは文字だけでなく、映像などの情報も入れて欲しい

【避難に関する意見】

<避難所について>

- ・避難勧告が出た地区では、避難場所が遠く、行くことが危険な場所もある
- ・避難場所として指定された場所よりも、学校病院等の適切な場所があるはず
- ・指定避難場所がわからない
- ・隣近所が避難していなければ避難しにくい

2. 災害時要援護者の安全確保について

避難時において、「災害時要援護者」の安全確保でどのような不安点がありますか。具体的な内容について、ご自由にお書きください。

当該設問は、同居者に災害時要援護者がいる方が回答していることから、回答内容が災害時要援護者本人の場合と非要援護者（同居者に災害時要援護者がいる人）の場合があった。

災害時要援護者本人、非要援護者の回答ともに、避難のための【移動に関する意見】と【避難所に関する意見】が主なものだった。

（1）災害時要援護者本人からの意見

【移動に関する意見】

- ・自身の体が不自由なため自力で移動することが困難であるという意見が多かった。
- ・頼りにしている同居者がいる場合においても、同居者不在（就業中など）の際に災害が発生することに不安を感じている。
- ・このことから、要援護者対策としては同居者の勤務場所、勤務時間帯も把握しておくことも必要と思われる。

【避難所に関する意見】

- ・避難所に治療のための機器を持ち込むことや、咳などで周囲に迷惑をかけることに対して不安を持っている意見があった。
- ・食事制限や透析などの避難所生活が、日常の体調管理を困難にすることに不安を感じているようである。

（2）非要援護者からの意見

【移動に関する意見】

- ・勤務時間に災害が発生した場合自らが不在の為に支援できない、また自らが在宅中でも体力的な負担が大きいため、寝たきりの家族を移動させることが困難であると感じているようである。
- ・小さい子供を持つ親が、子供を連れて安全に逃げられるかについて不安視している。

(3) 主な意見の要約

以下のとおり、分野別に主な意見を集約した。

①災害時要援護者本人からの意見

【移動に関すること】

- ・ 家族が仕事の際、逃げられない
- ・ 歩行が困難（足が悪い、車椅子、体が弱い）
- ・ 夜間、積雪時の移動が心配

【避難所に関すること】

- ・ 病気のため、必要な機器の持ち込みが不安
- ・ (咳などで) 避難先で迷惑をかけないか不安
- ・ 透析をしているため避難生活が心配
- ・ 食事制限があるため不安

②非要援護者（同居者に災害時要援護者がいる人）からの意見

【移動に関すること】

- ・ 自分が仕事の際、家族を助けられない
- ・ 家族（夫婦とも）が要援護者で逃げるのが困難
- ・ 寝たきりの人をどのように移動させるのか
- ・ 子供が小さいため、避難場所への移動が不安

【避難所に関すること】

- ・ オムツ・ミルクなどの消耗品が不安
- ・ 避難後の支援

V. 考察

1. 防災情報伝達の現状について

本市における主な防災情報の伝達手法として、以下の6つの手法が活用されている。

C A T V	地域メディアであるケーブルテレビ局の災害放送チャンネルにて、気象など防災情報や市からの避難情報などを文字放送によりお知らせするもの。(CATV普及率95.1%)
防災ラジオ [防災情報受信機]	敦賀市に住民登録されている世帯に、1世帯1台を無償で貸与しているFMラジオ。災害等の緊急時に自動起動してコミュニティFMを通じて市民へ緊急情報をお知らせするもの。(防災ラジオ普及率63.7%)
T o n B oメール [敦賀市防災 情報配信メール]	気象情報や避難勧告、緊急地震速報などの情報をあらかじめ登録した携帯電話、パソコンのメールにお知らせするもの。事前登録型メールであるため、メールを受信できる環境であれば、全国どこでも自動受信できる。
ホームページ	T o n B oメールと連動または直接入力し、緊急情報などをホームページ上でお知らせするもの。
緊急速報メール	災害情報や避難勧告等の情報を携帯電話会社のサービス「緊急速報メール」を利用して配信するもの。事前登録する必要はなく、配信対象エリアにある携帯電話へ一斉配信される。但し、携帯電話の機種により受信できないものがある。
広報車	広報車が市内を巡回し、拡声器を用いて住民に緊急情報等をお知らせするもの。

台風18号における情報伝達についても上記の6つの手段で実施しており、16日3時06分「土砂災害警戒情報」、5時05分「大雨特別警報は3種類の手段(CATV、TonBomメール、ホームページ)、16日4時15分「笙の川左岸避難準備警報」は4種類の手段(CATV、TonBomメール、ホームページ、広報車)による情報発信が行われた。

その後、5時25分「笙の川左・右岸避難勧告」以降は前述の4種類に加え、(防災ラジオ、緊急速報メール)と6種類全ての手段を活用して情報発信を行った。[詳細は参考資料1を参照]

2. 課題の抽出について

(1) 情報伝達手段に関すること

- ①早い時間帯についてはT o n B oメール、防災ラジオによって知ったという意見が多くあり、時間が遅くなるに従ってテレビ（RCNを含む）からの情報が多くなっている。このことから、災害情報の発信における初期段階において、防災ラジオ、T o n B oメールのよう強制的に情報を送る手段が効果を発揮し、その後の受信者側が能動的に情報を収集する際には、RCNなどのテレビによる継続的な情報発信が効果的だったと考えられる。
- ②情報収集ツールとしても最も効果的だった情報は、全体で見るとテレビが圧倒的に多く、次いで携帯電話となっている。しかし、テレビと回答した割合を世代別に見ると、60歳代以上が83%を超えているのに対して20歳代では46%に留まっている。また、20歳代はパソコン・携帯の割合が40%を占めている。このように世代によって情報収集手段にかなり違いがあることが判明したとともに、高齢層への情報伝達は、テレビからの情報発信を充実させることが有効であることがわかった。
- ③防災ラジオの設置者割合が81%であるのに対して、T o n B oメール登録者が26%と大きな開きがある。防災意識が比較的高いと推測されるアンケート回答者の中でもこれだけ大きな差があることから、T o n B oメールの普及啓発が今後の課題のひとつと考えられる。
- ④SNSは、地域内における登録者間の相互情報交換を促進するサービスとして効果的であると思われるが、今回あまり活用されていない。この理由としては、市内について災害情報を交換するための環境が十分に整っていなかったことなどから、既存のSNSサービスに有効な情報があまりなく、効果を発揮できなかったのではないかと推測される。
- ⑤防災ラジオを認識している人の中でも、あえて設置申請をしないという人が約10%いることから、その原因の究明と対応策が必要と考えられる。

(2) 情報伝達方法及び内容に関すること

- ① 今回の災害情報の理解度については、理解できたという回答が約77%で、分からなかったとの回答が約14%あった。分からない理由としては、文章が“長い”、“短い”と意見が分かれたこと、その他、自由意見の内容などから、発信した情報内容の問題ではなく、聞こえにくいなどの情報伝達方法に問題があったのではないかと思われる。
- ② 自由意見で比較的多く出た意見として、状況を把握する上でカメラ映像が避難行動の判断基準となったという意見が多く出ていた。また、市域全体の情報ではなく、地域（居住地周辺）の情報が欲しかったという意見が多く出た。これらの意見は、住民が今回の災害で与えられた情報に対して、もっと現状を認識しやすく、さらに身近なエリアの情報を把握したいという意識を持っていることを表していると考えられる。

(3) 避難行動に関すること

- ① 避難行動をとった回答者のうち、避難勧告に従おうと思った人と消防団等からの呼びかけに従った人を合わせると約41%となり、行政からの情報の重要性が認識できる。合わせて、周辺状況等から判断された人も約15%いたことから、避難行動に直結する行政からの情報発信と自ら判断し行動できる防災意識の醸成とを両輪で進めていくべきであるといえる。
- ② 関連情報や居住地周辺の状況などを元に自ら判断し、行動を決めた人の割合が少なくないことから、住民の適切な行動を促すためには、勧告や指示を的確に伝えることはもとより、地域の状況など住民が判断材料とする情報をより詳細に提供することが必要だと考えられる。
- ③ 地域住民同士による避難活動支援の有無については、約84%の回答者がなかったと回答していることから、後述する災害時要援護者の対応を含めて地域の防災活動の充実を図ることが重要である。

(4) 災害時要援護者に関すること

- ①避難勧告の認知度は、要援護者と同居している方が5%高いことから、情報収集を積極的に行っていることがわかる。しかし、自宅内で避難行動を取った割合は要援護者と同居している方が6%低くなっている。これは、自由意見にも記されていたが、同居者も高齢であるなどの理由で、寝たきりなどの要介護者を自宅内で避難させることすら困難だった回答者が多いことを示すと考えられる。このことから、要援護者の中でも同居者の有無など避難支援者の状況を踏まえて、災害時要援護者の支援優先度を定めるトリアージのような作業が必要であると考えられる。
- ②自由意見などから、たとえ要援護者が若い世代と同居していても、就業などによって外出している場合、同居者が対応できないことも十分に考慮しなければならない。

(5) その他災害対応全体に関すること

- ①若年層は、アンケート回収率をはじめ、特別警報や避難所の位置など防災関連情報の認知率が低いことなどから、防災に対する意識が他の世代と比べて十分ではないことがわかる。また、災害時要援護者についての認知状況についても、支援される側の高齢層と比較して支援する側の若年層の認知が低い。今後、高齢化の進展に伴って災害時要援護者の割合は増加することが予想される中で、若年層による支援は重要な役割を持つことなども踏まえ、これら若年層の防災意識を高めることは非常に重要になる。

3. 防災情報伝達に関する改善の方向性について

(1) 情報伝達手段に関すること

- ①情報伝達手段については、情報発信時の時間帯や市内の状況、情報受信者の世代などによって重要視される情報ツールが異なる。このことを踏まえ、現状の情報発信手段に加え、SNSなどを活用した情報発信をはじめ、多様な手段を組み合わせた情報発信について検討していく。
- ②情報伝達の初動段階では、防災ラジオ、TonBoメールが、効果的に機能していることがわかった。このことを踏まえ、市民に対してはこれらの情報伝達手法の効果の高さについて理解してもらうとともに、様々な場面での啓発を通じて普及率をさらに高めていくこととする。
- ③高齢層への情報伝達手段としては、テレビが最も有効であることがわかった。このことを踏まえ、テレビ局をはじめとした報道機関へ情報提供は、適時適切に実施するとともに、地域メディアであるケーブルテレビ局とは、詳細かつ迅速な情報提供ができるよう災害時における放送協定などの検討を行う。

(2) 情報伝達方法及び内容に関すること

- ①避難勧告等の情報が住民の避難行動に直結できるようにするため、避難勧告を発令する理由や原因及び地域単位での危険度がしっかり住民に伝達できるよう内容（文言や口調など）を検討し、可能な限りマニュアル化しておく。
- ②カメラ映像が避難行動の判断基準となったという意見もあったことから、インターネットカメラの活用や、ケーブルテレビ局との連携など、映像を用いて視覚に訴える内容の情報発信を積極的に行えるよう研究する。
- ③スピーカーを用いた広報車による情報発信は、降雨状況や走行速度、走行ルートなどの要因が情報伝達効果に大きく影響を及ぼすことが再認識された。このことから、より聞き取りやすく、伝わりやすくするため、運用方法の改善や車両による広報活動マニュアル等を整備する。また、必要に応じて屋外スピーカーの配置見直し、増設なども検討する。

(3) 避難行動に関すること

- ①避難準備情報、避難勧告、避難指示といった用語が、正しく住民に理解されていないとの意見があることから、広報紙や出前講座等を通じて避難情報に関する説明を広く実施していく。
- ②避難しなかった理由として、近所が避難しなかったためという理由もあげられている。このため、区長や防災士といった地域の防災リーダーが率先避難することにより、地域全体の避難行動率が向上すると考えられるので、地域防災連絡協議会のリーダー研修会や各種地域の方が参加する講座等で率先避難の重要性を説明していく。
- ③地域住民同士による避難活動の支援があまり行われなかったことから、地域での避難訓練などを通じて相互支援についての意識を高め、地域防災力の向上につなげる。

(4) 災害時要援護者に関すること

- ①福祉部局の災害時要援護者情報を、万が一の際は迅速かつ的確に情報共有し活用できるよう、災害時要援護者避難訓練を関係機関一体となって実施する。
- ②災害発生時の緊急状況に応じて、災害時要援護者自身やその家族の状況などを踏まえた適切な援護活用が可能になるように、要援護者の支援体制についてマニュアル等の整備を検討する。

(5) その他災害対応全体に関すること

- ①全ての年代において防災意識の向上が必要であるが、特に若年層の防災意識が低いことから、児童・生徒の防災教育、若い世代への出前講座等の充実を図る。
- ②日頃の防災に対する意識や避難訓練が、災害発生時の適切な避難行動に繋がると考えられるため、様々な情報発信や訓練に絡めて、住民の避難訓練を実践していく。

資 料 編

【参考資料 1】 台風 18 号における住民広報手段一覧表

時間	広報手段		C A T V	防災ラジオ	TonBoメール	H P	緊急速報メール	広報車
	広報内容							
9/15 20:28	大雨・洪水警報発表		○		◎	○		
9/16 3:06	土砂災害警戒情報発表		○		◎	○		
4:15	笙の川左岸 避難準備情報		○		○	○		○
5:05	大雨特別警報発表		○		○	△		
5:25	笙の川左・右岸 避難勧告		○	○	○	○	○	○
6:13	杳見小 避難所追加		○	○	○	△	○	○
6:40	櫛林、砂流 避難勧告追加		○	○	○	△	○	○
8:50	市内全域 避難勧告(土砂)		○	○	○	△	○	○
11:15	大雨特別警報解除 笙の川周辺、櫛林、砂流 避難勧告解除		○	○	○	△	○	○
11:50	避難勧告全解除		○	○	○	△	○	○

(◎ : Jアラート自動配信、○ : 手動配信、△ : TonBoメールと連動し掲載)

※広報手段の解説

C A T V : ケーブルテレビ (RCN) の防災放送チャンネル[防災専用]

防 災 ラジ オ : 防災情報受信機 [コミュニティFM利用: 1世帯に1台貸与]

TonBoメール : 敦賀市防災情報配信メール [事前登録型メール]

H P : 敦賀市のホームページ

緊急速報メール : 敦賀市から携帯電話会社を經由して発信した防災関連メール

広 報 車 : 市役所や消防等の広報車

【参考資料 2】 災害対策本部 時系列

日 時	笙の川水位	時間別降雨量	災害対策本部	警報・注意報
9/15 20:00	77 cm	4.5 mm		
20:28				大雨洪水警報
21:00	95 cm	12.5 mm		
22:00	102 cm	3.5 mm		
23:00	113 cm	9.0 mm		
9/16 0:00	128 cm	12.0 mm		
1:00	164 cm	21.5 mm		
1:10	170 cm		笙の川氾濫注意水位	
1:55			水防連絡会議	
2:00	209 cm	18.5 mm		
2:10	210 cm		笙の川避難判断水位	
3:00	230 cm	22.0 mm	① 災害対策本部会議	
3:06				土砂災害警戒情報
3:30			② 災害対策本部会議	
3:40			笙の川氾濫危険水位	
4:00	269 cm	23.0 mm	③ 災害対策本部会議	
4:15			避難準備情報 発令	
4:40			④ 災害対策本部会議	
5:00	296 cm	13.0 mm		
5:05				大雨特別警報 発表
5:15			⑤ 災害対策本部会議	
5:25			避難勧告 (10 地区)	
5:50			⑥ 災害対策本部会議	
6:00	315 cm	17.0 mm		
6:13			沓見小避難所開設	
6:25			⑦ 災害対策本部会議	
6:40			避難勧告 (2 地区)	
7:00	345 cm	17.0 mm	⑧ 災害対策本部会議	
7:40	363 cm			
7:45			⑨ 災害対策本部会議	
8:00	359 cm	11.5 mm		
8:50			市内全域避難勧告	
9:00	316 cm	2.5 mm	⑩ 災害対策本部会議	
10:00	277 cm	3.0 mm	⑪ 災害対策本部会議	
10:56				大雨特別警報 解除

日 時	笹の川水位	時間別降雨量	災害対策本部	警報・注意報
11 : 00	246 cm	0.0 mm	⑫ 災害対策本部会議	
11 : 45			⑬ 災害対策本部会議	
12 : 00	224 cm	0.0 mm		
13 : 00	210 cm	1.5 mm		
14 : 00	199 cm	0.0 mm		
14 : 18				洪水警報→注意報
18 : 45				土砂災害警戒情報解除
19 : 00			災害対策本部解散	
20 : 25				大雨警報解除

【参考資料 3】 問 2 2 自由意見 回答一覧

No.	年代	性別	自由意見
1	男性	70 代以上	民放(例えば、7・8 チャンネル)でも情報などがわかるように、テレビに流してほしい。
2	男性	60 代	同居はしていないが、障害者がある。
3	女性	70 代以上	市の情報が分かりにくい。市の担当者も小さな山の村までなかなか連絡できないのが普通だと思いますので、自分の身は自分で守れるよう、工夫します。
4	男性	20 代	家等にいる時はテレビが一番の情報源になると思う。それ以外の場合はケータイ等となると思うので、様々な情報源があると良い。
5	男性	50 代	<p>敦賀の地は今までに自然災害の少ない地域なので、今回のような災害に対して危機感が希薄であることを実感しました。(自分自身に対してです)</p> <p>「避難勧告」が出たのに行動に移らないのは、勧告であって行動するのは自由と考えるのと、経験が浅いのが原因と思います。</p> <p>最近の災害は、過去の経験は役に立たない程の規模で発生します。</p> <p>しかし、人間は安心しようと過去に問題なかったから大丈夫と思い込みたがりです。この習性を改善する活動が必要と考えます。</p> <p>この点を考慮して、台風接近の段階から事前予測を市民に周知すると共に、高齢者の方や災害時要援護者の方々には念のため避難所に移動してもらおうことも考慮する必要があると思います。実際に災害が発生の直前になってから「避難指示」が出ても、たぶん手遅れ状態になると思います。</p> <p>結果として、空振りになってもいいのではないのでしょうか。市民の安全確保のために、市が「避難勧告」を出したら、次に「避難指示」が出ることを前提にしていることを認識して避難準備(避難場所確認を含む)して待機または避難を開始すること。</p> <p>「避難指示」が出たら、直ちに避難場所に向かうこと。この時、状況判断して無理であったら自宅内の安全な場所に避難するなどの知識を周知する必要があると考えます。</p> <p>市が「避難勧告」→「避難指示」と指示を出すタイミングは非常に難しいですが、空振りになってもいいので早めの指示が必要と思います。</p> <p>今回のアンケートの分析結果から、より安全な敦賀市にさせていただきようお願いいたします。</p>
6	男性	60 代	災害の情報を送ってもすぐに対応できるかと言う不安がある。床下へ水が流れていると言っても、こっちの方が大変だからと言って、すぐに対応してもらえないのでは...
7	女性	60 代	敦賀市情報配信メールで対応出来ると考えています。川の水位を知らせて頂ければ、それを基準に避難を考える。
8	女性	50 代	<p>以前、地震などの災害の時に、要援護者の有無の確認と、実際何か災害が起こった時に施設(優先的)の利用を希望するかしないかという、書面を市に提出したが、それっきり。その後、どうしたらいいかなどの具体案が示されなかった。(全く意味のないものだった)</p> <p>現在、うちは、施設に入所したが、今回こそは、何かにかされるアンケートであってほしい。</p>
9	男性	50 代	<p>避難勧告が出た地区で避難場所が遠く、避難場所へ行くことが危険な所がある。検討すべき。</p> <p>避難勧告が出た地区には、防災ラジオで避難場所を知らせるべき。</p>
10	女性	60 代	小さな川の水が流れず、水かさが増し、道路が川のように流れていた。黒河川が流れず、山泉の下の方が切れるのではないかと案じた。
11	男性	60 代	<p>ニュースは遠い存在で現実感があまりない。</p> <p>遠くの知人達から、TELやメールが多くて怖さを感じた。</p> <p>外へ出て良いのか...。離れているので、渦中にいる時は判断がつかない。</p>
12	男性	60 代	<p>避難場所は何か所もありますが、大雨の時は、どの避難所でも良いとは思いません。水につかる所もあるのでは？</p> <p>水につかる所は、ないのなら良いのですが、もし、つかる所がある様なら、前もって知らせておく必要があるのでは。</p>
13	女性	30 代	避難勧告が出た時、その時の避難状況(避難所の受け入れ体制・避難している人数)も教えて欲しい。
14	女性	60 代	市内の被害情報がなかったので、なんで避難しなければならないのか、わからなかった。
15	女性	60 代	<p>2ヶ月近く前のことについてのアンケートは、時間的なものなどの質問は覚えていないことが多い。</p> <p>自分は避難勧告外であったが、その地域の人達は、詳細な避難方法で誘導されたのでしょうか？</p>
16	男性	40 代	大雨警報発令時は市内の主要な河川の映像や水位のグラフをCATVの防災チャンネルで放映して欲しい

No.	年代	性別	自由意見
17	女性	40代	他町内の避難場所の方が近いので、そこに行くので良いでしょうか。
18	女性	70代以上	福祉関係の人々の連携がもとなされていたらと思います。
19	男性	60代	防災ラジオの声(音)が小さく、あまり、聞こえなかった。以前、地震だった？非常に大きな声でビックリしてケガ人が出た事を考慮して小さくしているのか？ラジオで呼びかけ、勧告は5分毎位に連続して実施すべきと思うが、...。今回は一回くらいしか聞かなかったように思う。
20	女性	70代以上	NHKのテレビが24時間繰り返し放送しているため寝ずに見ていました。
21	女性	60代	防災ラジオ、広報車を分かりやすく、知らせたい！ 敦賀市は防災訓練を地域ごとに強化しないといけないと思う。
22	女性	70代以上	年も取っているのに、その時の状態で自分なりの行動を取ると思います。他の人に迷惑をかけないようにしようと思っています。
23	男性	50代	もっと身近に伝達できるようにしてほしい(例 近くにサイレン設置)
24	男性	40代	市内の各所の状況がどうなのか。自分の住んでいる地域はどうかかなど、危機感が具体的に分からないため、避難の要否の判断が難しいと思った。
25	男性	40代	伊豆大島の災害でもご存知のように、今回の例は、大変良かったと思います。
26	女性	40代	呉竹町の水はけがかなり悪いので、今回も水がたまったと思います(昔からですが)。 橋の強化をした方が良いのでは？
27	男性	60代	今回の台風18号に対する災害情報は、役に立ったと考えている。TonBo、防災ラジオ、RCN等で頻繁な情報が得られたと思う。
28	女性	50代	大雨、地震、津波、高潮など、いろいろ災害がありますが、どの災害でも同じ避難所へ行くのは心配です。 大雨ならここ、地震・津波ならこと、市の方である程度決めて、町内の方から、そういう話をしていたら、日頃から家庭内でも、いろいろ決めておけるのでいいと思います。
29	男性	70代以上	各町内の指導者への行政よりの情報のあり方。町内見回りのため自宅電話に出れないため携帯電話の登録を行い情報及び指示を行う。 できない場合は各町内に無線機を配り情報を伝える。 水害時の避難場所の見直しをすべき。 各町の会館避難所としての明確化をのぞむ。
30	女性	60代	携帯、テレビなどの情報通達は、わかりやすい!!
31	女性	30代	特になし。とりあえず、今回のような感じでいいと思う。
32	男性	70代以上	現状でよい。
33	男性	60代	防災ラジオがありませんのでほしいです。
34	女性	60代	防災ラジオは役に立つと思う。
35	女性	40代	参考になりました！ 防災ラジオにより、逐一、避難地区が分かり、地理的に状況判断が出来ました。(結局、最終的には市内全域になりましたが...)。 例えば、あそこの地区が避難となれば、ここも危ないかもしれない...とか 予想していなかった所が避難となれば、同じような地形の所も危ないかもしれない等、自己判断で前もって避難の準備をしたり、又、避難経路の参考にもなります。 より参考になれば...。 台風が気になりテレビを見ていたら、KBS京都が深夜(通常番組終了後だと思えます)市内の鴨川と嵐山の渡月橋を交互に四六時中LIVE映像を放送していました。特に嵐山の方は、みるみるうちに河川敷の石畳が川からあふれた水で埋まっていき、どんどん水かさが増していく様子が分かりました。おそらく据え置きカメラではないかと思われませんが、ライトで照らされて、夜でもよく分かりました。 RCNつるがチャンネルでも笙の川が映し出されましたが、確か明け方7:00頃からだったと思います。大変参考になりましたが、夜でも分かれば、より一層役に立つのではと思いました。 経費がかからない事も大事なので、例えば非常時だけ、一部分だけ、ライトをつける(ソーラー)等
36	男性	70代以上	いつ、だれが、災害時要援護者と決めているのか？
37	男性	20代	楡林はエリアが広く、避難勧告が出ても自分の家が本当に対象か疑ってしまう。例えば、〇〇川周辺に避難勧告といった、もう少し具体的に勧告を出して欲しい。
38	男性	50代	市街地の場合、洪水災害が一番懸念されます。インターネットの河川カメラが時間待ちで全く役に立たなかった。何か方策があれば良いと思います。

No.	年代	性別	自由意見
39	女性	50代	要援護者については、直接、玄関を(ノック、呼び鈴、チャイム)訪問すべきだと思います。いざという時のご近所助け合いが一番だと思う。 若者(?)のいる世帯がその任を背負わなければなりませんね。
40	男性	70代以上	私、昭和町住人で近くのアピタの駐車場へ避難しようと思いましたが(自動車の確保も必要ですから)チェーンがかかっており進入できず、中央小学校へ避難しましたが、校庭に置きましたが、水が来れば車がアウトです。 私の案ですが、アピタ・平和堂の駐車へ、水害の場合、避難できるように、市が交渉してほしいと思います。障害者又は高齢者のいる家族は避難には車が第一ですから。(AM6:30~7:00でした。ちょうど、警備がいましたがチェーンを外してくれませんでした。)
41	男性	30代	町内等にスピーカーが設置されているとありがたいです。
42	女性	30代	川の状況など自分でも確認できるようにネットで見れる情報が多いと分かりやすい。
43	男性	50代	携帯・スマホや防災ラジオによる情報伝達は迅速で大変優れていると思いますが、電源が失われた状況になったときでも発信されるようなバックアップ体制は整っているのでしょうか。大切なことかと思えます。
44	女性	50代	RCNなどのカメラ設置を増やして各所の状況を見やすくわかりやすくしてほしい。実情を早く知りたい。
45	女性	40代	敦賀市防災情報配信メールがあるのを知りませんでした。 広報などでお知らせしていたのかもしれませんが。 今一度、災害情報の伝達方法をお知らせください。
46	男性	50代	防災ラジオだけでは聞きとりずらさがあるため、町内放送などでも情報が伝達されると分かりやすいのでは？
47	女性	60代	防災ラジオ一階にいる時は一階に、寝る時は二階に持って上がるのでしょうか？
48	女性	60代	今回、木崎地区が中央小学校へ避難した事も知らずにいた(東京にいる娘から連絡がはいる、たまたま知った状況です。
49	女性	30代	防災ラジオの音量調節ができないか？小さい子供が大きい音に恐がるため小さくできるとよい。
50	男性	50代	警報等が解除されるまで笹の川に架かる全ての橋を通行止めにする事は不可能でしょうか？ 仕事のため、やむを得ず通行しましたが危険を感じました。
51	男性	50代	テレビで自分の住んでいる地域が避難地域となっても隣近所の行動が避難しなければ、避難するのもおかしい。 また、マンションなどの場合と一軒家では異なるのでは？ 本当に必要なら広報車などで知らせるべきと思う。
52	女性	40代	わかりやすく、早い情報で落ち着いて自宅待機出来ました。笹の川付近の実家の様子も、TV等で知り、すぐに連絡がとれた。
53	女性	50代	広報車が走っていたが、走るのがはずぎて何を言っているのかわからなくて、かえって不安になった。伝えることが目的で走っているのなら、ちゃんと伝わるよう、もうすこし、ゆっくり走った方がいいと思います。
54	男性	60代	防災ラジオがあるので安心している。できるだけ詳細に情報を流していただけるとありがたい。(急になりだすとびっくりするので優しいメロディのチャイムがよいのでは？)
55	女性	50代	家にいる時は災害情報はわかるけど、仕事場ではわかるかなと思不安です。携帯電話には、登録してあり、すぐ役立っています。自分の体を持っていれば、いろいろと分かるからです。9月15日~16日の情報は分かりやすかったです。危機管理対策課様、ご苦労様でした。安心していられます。 敦賀市ラジオの声が小さいです。もう少し大きい声で…。少し離れると聞こえない。
56	男性	60代	自宅の防災ラジオで、外出の時は、周りの状況にて判断する。 自然災害では深夜には行動しない。(地域にもよるが私が住んでいる場所では深夜に行動する災害が思いつかない) 原子力災害は役所の情報に従うしかないと思う。
57	女性	70代以上	特にありません。
58	女性	40代	別居の家族に災害時要援護者がいる。具体的にどのように手助けを受けられるのか、安全確保はどうなっているのか、もっと周知して欲しい。

No.	年代	性別	自由意見
59	女性	40代	その日、朝起きると、川の水はあふれそうで、市道は川になっていました。高速・国道は緊急車両、行ったと思うと止まり、道より下にある我家は大丈夫？家の中に人がいるんです。声をかけてください。緊急車両。「逃げたら...」って、こわかったです。
60	女性	30代	特になし。不満もなし。
61	男性	60代	各区長宅に市の方から連絡し、区長が自警団に連絡をして、車でパトロールする。区単位で避難訓練をしておく。
62	男性	30代	RCNのチューナーから強制的に信号（毎年テストしているもの）などを送る等、強引に行っても良いと思います。
63	女性	50代	テレビを一番の情報源としているが、停電では利用できないので、ラジオも身近に置こうと思いました。（現在、寝る部屋から離れた所にあるので）携帯メール受信も、私には有効でしたが、持っていない高齢者等には、別の絶対的な手段が必要ですね。
64	女性	50代	笹の川が危ないという事は、わかっていましたが、RCN等で、映像が放送されるのが遅く、川の近くに知人も多く住んでいたのですが、電話での確認しかできず、不安でした。沓見の浸水も後日聞いて、恐ろしく思いました。もう少し、多くの情報が欲しかったです。
65	男性	60代	市から地区の長へ防災無線で区長が放送すると良い。
66	女性	70代以上	災害の時の野神区の人達の避難場所をきめて教えて欲しいと思います。常にその事を頭に入れておかないと急な時にとまどいます。
67	男性	50代	最終的に市民全員、周知の義務が必要。
68	女性	50代	「避難勧告」「避難指示」「避難命令」の違いがよく分からない。
69	女性	50代	自主的避難は、私も行かないと思うので危険が予測される時は早めに避難命令を出して強制的に避難するように伝達方法を見直して欲しい。
70	女性	60代	川が決壊・氾濫すれば市全体に被害が及ぶ。笹の川の浚渫が必要だと思うが、市は県の管轄だと言われる。事前の状況把握も必要かと思う。（被害を最小にするためと、県に申請するため）
71	女性	70代以上	今回の特別警報が発令された際、私の住む地区（三島町1丁目）からプラザ万象へ避難するよう指示されたが距離が遠く現状にそぐわないので、近くの公共施設（病院、学校、公民館、町内会の会館など）へ休日、夜間を問わず、入居できるように指示・手配して欲しい。
72	男性	30代	災害時は難しいと思われませんが、テレビが主な情報源になりますので、出来る限り詳しい情報をこまめに流して欲しいです。
73	男性	60代	市から電話があるので分かる。
74	男性	40代	鋳物町の避難所が、児童館で3地区が入るはずが無い。
75	女性	40代	町内等で、伝達方法を確認する必要があると思います。
76	男性	40代	RCNでは、文字だけではなく映像や実況を交えた情報を流して欲しい。
77	女性	40代	人事と考えがちだが、しっかり情報をとり、近くの方との連携も大事にしなければと考えさせられていた。利用出来る物は活用したいと思いました。
78	女性	30代	三島1丁目に住んでいる者です。9月16日の避難勧告の広報車の声ですが、おそらく車の移動スピードが速かったせいか、全て聴き取ることが出来ませんでした。何回も行ったりきたりして、伝えようとしてくれましたがもっとうまく聴き取れるようにして欲しいです。
79	女性	50代	今回、広報車で早く気づきました、その後防災ラジオも役にたち状況を把握できたと思います。情報を聞いてもマンションの住民や近隣の動きがなく、危機感はあまり感じていない様に思いました。
80	女性	30代	地域内での情報（区長、民生委員、班長）から現状等の連絡が欲しい。近隣との交流が少ない家が多いと、どうしてよいか分からないなど不安になりやすいと思います。誰に聞いていいか分からない、などあると思います。
81	女性	50代	市役所の広報車に伝える伝達は、一番誰にも分かるので良いと思います。
82	男性	60代	避難勧告情報について、避難区域は良く理解出来たが、何の原因（河川、土砂崩れ等）で避難するのか少し理解出来なかった。
83	男性	70代以上	夜間の避難路の安全対策。
84	男性	70代以上	緊急の時には地区の防犯組織があり、すぐに伝達出来れば考えます。その方がラジオ、テレビで呼び掛けているより現実味があると思われれます。
85	男性	60代	私は携帯メールで確認している。

No.	年代	性別	自由意見
86	男性	60代	今回、水路が満水になり、道路に水が溢れて通行ができなくなった。また、家の入り口まで雨水がせまってきた。あと半日雨が降り続いていたら家の中まで浸水したと思う。水路等の改良を願う。
87	女性	30代	現代はいろいろな所から情報が手に入る為、どれが正しく、どれを信じていいのか混乱してしまう。この場合はここを見る、これに従う、という決定的な機関があればより安心感があると思う。もしくは、避難準備情報の情報源である情報チャンネル、TonBo メールなどの存在を徹底して市民に認知させる事が重要だと感じる。
88	男性	50代	今回の様なある程度、事前に予測がつく災害の場合は、今まで通りの伝達で良いと思うが、東日本や阪神の震災の様に予測不可能な場合にどうするか？防災ラジオの設置場所を考える必要がある(個々にて)と思う。又、停電の際にこれが機能するか否か(充電時間)も影響があると思うが、何より普段から地域住民の(つながり)が最も大切であると考え。
89	女性	40代	9月の大雨の時、車が水で埋もれそうになり怖かったので10月も外に出たくなかった。どの道が通行可能かどうか分かると助かります。上流や山が、どの程度降っているか(過去データと比べて)今は安全でも数時間後は、危険と具体的に知らせていただけると助かります。川の生中継？は時々見ていましたが栗野地区の川も映ると助かります。外の雨の降り方や近所の人々が避難していないのを見て自分も動かなかった。これが災害につながるんだな〜と反省もしています。
90	女性	50代	災害の情報は、防災ラジオやテレビで良く分かりますが、避難所はあまり分からず、どう行動すれば良いのか不安なので防災マップなどを配布して頂けると良いです。
91	女性	70代以上	台風情報についてRCNテレビ放送で出来る限り分かりやすく状況伝達してほしい。
92	女性	60代	町内、隣近所の連携が重要だと思います。
93	男性	70代以上	台風18号による河川の増水で笹の川にある、松島橋、赤橋、中央橋等の橋台部分に上流からのガレキが引っ掛かった状態です。万が一、18号クラスの雨が降ることがあると、二次被害になる事も考えられます。外観的にも良くないと考えられます。故、早急な対応を。
94	女性	60代	広報車の廻る速度が速かった。スピーカの角度が変わる事で案内内容が分からない。言葉が聞き取れない。
95	女性	60代	今回みたいな事が又あると思います。その度、怖い思いをしない様に川を安全になる様にして下さい。川床に土、砂が溜まり、草木が生えてとても危険だといつも思っています。何もしてもらえない事がとても不安です。
96	女性	50代	携帯電話は常に持っているのでメールでのお知らせは良くわかった。
97	女性	40代	市内の被害情報や今後どうなるかの予測(雨、風、洪水)そういった情報がテレビをつけてすぐ分かると安心。あと、避難場所にオムツ等があると嬉しい。
98	女性	70代以上	歩く事が不自由なので逃げる事が出来ない。二階に上がるしかない。
99	男性	30代	防災カメラの河川状況が一番の判断材料です。溢れそうなら避難しようと思っているから。
100	女性	60代	広報車は櫛林にも走っていましたが、何を言っているか聞き取れませんでした。
101	男性	40代	避難場所の再検討。→沓見方面(運動公園等)が高台でもあり、駐車場も確保し易いのでは。水害が懸念されるのに、水辺に近い場所を避難先に設定するにはおかしい。避難経路の再検討。→市役所付近(中央町等)は明らかに松原地区より地面が低い。もし災害が起きれば真っ先に水に浸かる可能性が高い。沓見方面へ避難する為の広域避難道の整備と各河川の掘下げ整備を希望する。
102	男性	50代	今回は市の対応は良かったと思う。下手に動く方が危険と考えてあえて動かない。マンションは2階なもので、「命を守る行動」をマスコミは勘違いしている人もいる。必ずしも避難が正しとは思わない。(仕事で海のゴミが多く大変だった)
103	女性	60代	広報車の音を大きくして、隅から隅まで聞こえるようにして下さい。
104	男性	30代	避難所に居ての情報が分かりにくいので、ボードに書くか壁に貼って知らせると分かりやすいと皆が言っていました。耳の悪い老人が居るので聞こえにくかったそうです。毛布を貰っても寒かったそうです。長引くと大変だと思いました。
105	女性	50代	防災チャンネルは文字だけでなく、河川の水位など映像もあると行動に移りやすいと思う。
106	男性	60代	敦賀市では、今まで大きな被害も無く市民の関心も薄いのではないかと思います。空振り怖れず適確な情報を伝えて欲しい。広報車は、雑音などで聞き取りにくいので、防災ラジオの普及が必要だと思う。
107	女性	50代	知っている人もいれば連絡が無い人もいる。連絡が無い場合、どうしたらいい？一部の人だけじゃなく、敦賀市全体にもっと分かりやすく情報を提供すべきだと思う。何をするのも、何かあってからではなく、前もって災害に備えるべきだと思います。

No.	年代	性別	自由意見
108	女性	60代	仕事に出してしまうので、情報が出てほとんど夜しか聞けないし、防災ラジオも傷んで専用電池を買ってきたが動かなかったため、そのままほおってある。
109	男性	70代以上	当日は長野市内にいました。状況、情報はホテルのテレビを見て知り、安全を確認、安心しました。
110	女性	60代	災害情報の伝達する時に、避難場所等に迷ったと言う人がいたので、分かりやすく場所を考えて欲しい。
111	女性	70代以上	マイクを使って車で市内を回って呼び掛けて下さい。
112	女性	30代	防災ラジオは非常に役に立ちました。自宅に居ない時の為に TonBo メールというものの登録をしておかなければならないと感じた。また登録の仕方を広報に載せて下さい。
113	女性	30代	月1回、防災ラジオの試験放送をいただいておりますが、毎回、同じ曜日の同じ時間帯である為、その曜日、時間帯を留守にする家庭はきちんと受信出来ているかを確認出来ないと思います。試験日を特に変更したり、月に何回か違う曜日や時間帯にも増やしていただくと有り難いです。
114	女性	70代以上	年寄りであり、荷物も持たなければならぬため、外へは出ることができなかった。
115	女性	70代以上	対策の一つに、河川をきれいに底を深くして欲しい。笙の川は敦賀でも大きな川であるが、あまりにも汚く、もう少し手入れして欲しい。
116	女性	60代	松葉町に住んでいますが、地震の際に起きる津波の時は、どこへ避難すれば良いかわかりません。体育館で良いのでしょうか？
117	男性	70代以上	災害前の町内伝達は一番だと思います。前回の台風18号時の町内伝達は良かった、よく分かりました。
118	男性	60代	若者は勿論であるが、現在は高齢者も結構携帯電話やスマートフォンを持っている人が多いから、TonBoメールの登録を奨める。防災情報受信機の早期設置を奨める。
119	男性	70代以上	具体的に該当地域に知らせて欲しい。広報車が遠方では内容が分からない。
120	女性	70代以上	広報車は外が雨の場合は聞こえない。
121	男性	50代	ラジオの時、男性の声で呼び掛けをしているのはいいのだけど、夜中や朝方はドキッとしたりときもあります。
122	女性	40代	東日本大震災時に関東に住んでいて、あの時も防災ラジオがとても重宝しました。(停電していたのでTVで情報を得られなかった)。今回の9/16の台風18号の大雨特別警報も防災ラジオで知ったので設置して良かったと思いました。
123	女性	70代以上	RCN、市の防災ラジオで状況(NHKの様に)情報発信の回数を増やして下さい。
124	女性	60代	朝早くの勧告で、近所同志の声掛け単独行動に困惑した。避難所は既に聞いていて、迎えてくれた。(第1号避難者だった)メールに入る情報、市からの情報をお互いに伝え合って精神的な不安は解消された。
125	女性	50代	情報の収集は、防災ラジオやパソコンから河川カメラで出来ていると思うが、最近の想定外についての対応の方が知りたい。(小浜の特に300mmの降水に敦賀の河川は全然対応出来ない事とか不安です)
126	男性	60代	民放の局にもこまめに情報を出して欲しい。
127	男性	30代	防災ラジオの音量が調整出来ないのうでうさい。
128	男性	70代以上	寝室に防災ラジオが無いので(居間に置いてある)出来たら一家に2台欲しい。
129	女性	60代	地区により環境整備も違っているので(高地、低地地区等)。河川域付近、山間部など市内全域に同じ防災情報を発信しても、当てはまらない事もある。各区、地区内(家庭への伝達)の放送にて知らせると(区長の声にて)効果あるのでは、高齢者(年寄り)などは新システムの機械の声での誘導は分かりにくいと思います。避難等の誘導は、速やかでなければならぬので、日頃より心掛け訓練が必要です。
130	女性	60代	早朝だったから、大変良かったと思うが夜だと不安です。情報は早かったと思います。
131	男性	50代	TonBoメールで大雨警報、洪水警報が別々に入ってくるが、同時に一緒に文で入れた方が良いかも。災害の時は、何かと騒がしいので少しでも落ち着いて行動出来る様に、大変ですが宜しくお願いします。
132	男性	70代以上	私たちの班では、災害時において自主防災で連絡網を、各家に表示しています。だが、高齢者名簿を作成して各班の責任者が1日常に把握ができれば。
133	女性	50代	実際に避難勧告が出て高齢者が居る場合、家に居た方が安全だと思います。
134	男性	70代以上	大地震が発生、原発破壊、建物等が崩壊した時の避難方法(車が通れない)は、又避難、府、県は市、町は何処でしょうか？
135	女性	70代以上	防災ラジオ(頼りになります)
136	男性	60代	友人にTELする。

No.	年代	性別	自由意見
137	女性	50代	いろいろな形で迅速に災害時の状況を知れるのは、行動の目安になり有りがたいです。ただ最近の気候の変化などで何が起きるか分からないという危機感がありますが、実際に万が一に備えているか？という何もしていません。もっと防災意識を高める為近隣地域で避難訓練などをやっていけたら安心です。
138	男性	20代	河川の水位に関する情報をリアルタイムでHPに載せてほしい。
139	女性	60代	パトロール車で知らせて欲しい。
140	女性	50代	同居ではないが、高齢の両親が近くに住んでいます。脚が不自由な為、避難時いろんな状況があると思いますが、どういふふうに連れて行こうか不安があります。
141	男性	60代	私は近所で、老人(二人)の連絡係りに成っていますが、実際の時連絡又は見に行くことが出来るのか、もし訓練をした時自分の母をどうするか、他人に連絡をし連れていけても母は無理と思う、今後よく考えてみたい。
142	男性	40代	笹ノ川の増水の様子などがRCNの画面で、分かれば行動(避難)しやすいと思います。
143	女性	60代	特別警報、避難勧告があまりよく警報が鳴るだけで、村の情報が無く、どうして避難して良いのか分かりませんでした。
144	女性	40代	(警報の内容と合わせて)防災ラジオで、避難する地区と避難場所しか流れず、具体的に今どういう状況(水位とか)が分からず、河川から離れている地域のものは避難しないと思いました。
145	男性	60代	当日は消防団の活動中でした。大雨特別警報が発令されてからの避難所への移動は困難だと思いました。大雨特別警報発令のタイミングなど、これから考慮をお願いします。
146	女性	60代	一度警報が朝の五時頃かかりました。何度も何度も、呼び掛けていましたがどうして良いのか分からず困っていました。誤報と分かりホッとしました。正確な放送をお願いします。
147	男性	20代	ここ近年、笹の川は異常気象により、危険水位を何回も超えている。今後、より安全に暮らす為抜本的対策(河川対策)を是非実施してほしい。
148	男性	60代	市内の防災情報カメラを多く取り付ける。
149	女性	40代	大雨が降る度に、トイレなど下水道がつまりマンホールから排水されています。下水の整備を強く希望します。
150	女性	30代	今回の件に関し、防災ラジオ、市ホームページの内容を、随時確認し参考にしていましたが、避難所の情報があいまいで判断に迷った。小学校、公共施設に行けばいいの、各地区集会場などが開放されている所があるとか、各区に問い合わせようとか、避難所が定員オーバーの為、各地区の集会所なのかとかの、憶測で入れないならと自宅二階に避難した。
151	男性	40代	深夜の市民への情報伝達を、いかに上手く運べるかが被害防止に繋がると考えます。
152	女性	40代	今回(9/16)広報車が回っているのはわかりましたが、マンションの8Fで窓を閉め切っていた為、言葉が聞き取れなかった。(テレビのデータ放送を活用しました)広報車では警報音等でサインを送って危険を知らせて欲しいです。(当日は、早朝だった為寝てしまっていました。)
153	女性	40代	台風が明けてから「体育館へ避難していた」とか「河川の水が溢れそうで怖かった」という話を聞き、初めてそんな酷い状況だったんだと思った。TVやラジオなどで見ている、なんとなく他人事のように思い危機感がないし、同じ場所に住んでいても早めに避難と考える人、まだ大丈夫と思う人、それぞれで情報うんぬんより防災知識を、いかに高く持つかがキーとなっている様に思った。家族間でも、日頃からもしもの話をしておきたいと思う。
154	男性	30代	大変だとは思いますが、正確な情報を音声・映像・活字を使い多くの市民に知らせる様に、工夫を重ねて頂きたいと思います。
155	女性	20代	今回の災害情報については、「大雨特別警報」の新たな避難情報も知り、又適切な伝達により今後の対応についてもより参考になった。
156	女性	60代	今回、台風時、敦賀(自宅)に居らず県外に居たものですから、アンケート調査に協力出来ず申し訳ありません。
157	女性	70代以上	ケーブルテレビ、又は防災ラジオが一番いいと思いました。今回は、ラジオの設置場所が少し遠くて気が付かず、家族に起され状況を知りました。
158	女性	70代以上	特別警報の地区が、市単位では分かりにくい。市内各地区の情報を、時間単位にリアルな情報を流した方が的確に、災害から身を守り助かると思います。
159	女性	50代	防災ラジオは、設置しておいてよかったと思う。

No.	年代	性別	自由意見
160	男性	70代以上	真夜中の災害については、電灯等、暗がりの家については熟睡している可能性がある。自動車等で知らせても雨音等でなかなか聞こえにくい。消防団や地域の人に活躍頂きたい。
161	男性	60代	防災ラジオを設置しているが、伝達の放送が少し間違っていると思う。もっと詳しく説明があるし、又解除の場合や地震についても、もっとフォローが必要で何でも伝えても後は知らん顔、後の放送が何も無い。だからこちらは、ラジオ(NHK)にスイッチをずっと入れているがその方が安心である。防災ラジオは只うるさいだけ。
162	男性	40代	家が井の口川の近くなんです、川の水位の情報はとても気になります。予想雨量と川の映像とか、放送してくれると参考になり、とても知りたく思います。わざわざ見に行くのも危険なので、家に居ながら知る事が出来るのなら、避難するか判断する一助になると思います。
163	男性	50代	市内冠水箇所への対応が遅れている。幼児・病人・高齢者の徒歩、車椅子等による移動に支障をきしている現状を、急速に改善してもらいたい。避難後の応援物資等含めて、被災者支援に対し不安を覚える。
164	男性	30代	松島地区は避難所が松島小学校になってますが、笹ノ川が氾濫した場合は安全なのか疑問です。又ペット(犬)が居る場合も、安全に避難出来る所が有るといいです。
165	男性	60代	広報車・Mailも良いと思うが、防災放送で市内に報告した方がMail、防災ラジオ等よりも有効と思う。Mail・ラジオ等、対応出来ない人も居ると思う。
166	男性	20代	年一回でも、情報発信等訓練を行い、市民の防災意識を高めなければならないと思う。
167	男性	60代	敦賀市の場合RCNを使用して緊急放送訓練が有りました。時間が早いと思いました。AM8:00位の実施だと皆々さんが驚く事が無いと思います。
168	男性	40代	防災ラジオは高齢者はびっくりする。
169	女性	30代	設置されているのか分かりませんが、笹の川水位、櫛林地区、その他避難勧告の出ていない地区でも、用水路が溢れて家の前が川の様になっている場所など、心配な地区の映像が見られる様になると有難いです。
170	女性	50代	今回の件で、市内全域避難勧告を出す必要はあったのでしょうか？どういふ点から判断したのでしょうか？
171	女性	30代	笹の川付近に避難勧告が出ましたが、野神に出なかったのは、なぜですか？ 主人の実家は笹の川の真横にあり、あと少しで氾濫するところまで水位が上がってました。 義母は自分の判断で避難していましたが、少し疑問に思いました。
172	男性	70代以上	何回も市役所に提案したにも拘わらず、検討されていたかの知らせもなし。 木の芽川の堤防の件については、県土木・国交省に電話したら補修したとのことで、その後、この度の大雨。一体、市の防災はまともなのか？疑問!!
173	女性	30代	今回、早朝の防災ラジオで知りましたが、音量が変えられず、子供も起きて不安になっていました。 音量が調節できるように改善していただきたいです。 ※友人宅では、大音量に怖がり、防災ラジオは片付けられています。
174	女性	50代	避難情報・判断はタイムリーに実施していただきたいと思います。

災害情報等に関する住民実態調査アンケートへの ご協力のお願い

市民のみなさまには、日頃から市の防災行政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

9月15日から16日にかけて、京都府、滋賀県、福井県に大きな被害をもたらした「**台風18号**」は、敦賀市内においても、河川の氾濫など甚大な被害は免れましたが、観測史上最大の24時間降水量を記録し、市内各地で道路が冠水するなどの被害がでました。

このようなことから、本アンケートは、台風18号発生時における災害情報の伝達状況や避難行動、また防災に対する市民のみなさまの意識を調査・分析することにより、今後の防災対策の強化につなげていくことを目的として実施するものです。

つきましては、お忙しい中、お手数をおかけしますが、目的・趣旨をご理解のうえ、アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

※アンケートについて

- ・アンケート回答は**統計的に処理**いたしますので、みなさまにご迷惑をおかけすることはありません。また他の目的での利用することは一切ありません。
- ・ご記入いただいた調査票は、**11月12日（火）**までに**回答票を同封の返信用封筒に入れて、送付していただきますようお願いいたします。**
- ・この調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

■問い合わせ先：市民生活部 危機管理対策課（担当：小川、野崎）

電話番号：22-8166 ファクス番号：21-8682

メールアドレス：kikikanri@ton21.ne.jp

敦 賀 市

敦賀市災害情報等に関する住民実態調査アンケート

1. あなた自身についてお尋ねします。

当てはまる番号1つに○を付けてください。

■ 問1 あなたの性別は

- ① 男性 ② 女性

■ 問2 あなたの年代は

- ① 20歳代 ② 30歳代 ③ 40歳代 ④ 50歳代
⑤ 60歳代 ⑥ 70歳代以上

■ 問3 あなたのご家族は何人ですか

- ① 1人 ② 2人 ③ 3人 ④ 4人 ⑤ 5人 ⑥ 6人以上

■ 問4 あなたのお住まいの地区はどちらですか

- ①北地区 (金ヶ崎町、港町、栄新町、曙町、天筒町、桜町、蓬萊町、元町、相生町、神楽町1・2丁目、角鹿町)
- ②南地区 (舞崎町、舞崎町2丁目、清水町1・2丁目、本町1・2丁目、白銀町、鉄輪町1・2丁目、東洋町、布田町、木ノ芽町、若泉町、津内町3丁目)
- ③西地区 (津内町1・2丁目、川崎町、松栄町、結城町、三島町1・2・3丁目、開町、昭和町1・2丁目、呉竹町1・2丁目、中央町1・2丁目)
- ④松原地区 (松島町、松島町2丁目、鋳物師町、松原町、松葉町、櫛川、永大町、原、杳見、木崎、平和町、呉羽町、新松島町、櫛川町2丁目)
- ⑤西浦地区 (二村、名子、縄間、常宮、杳、手、色浜、浦底、明神町、立石、白木1・2丁目)
- ⑥東浦地区 (鞠山、田結、赤崎、江良、五幡、拳野、阿曾、杉津、横浜、大比田、元比田)
- ⑦東郷地区 (河原町、藤ヶ丘町、余座、大蔵、中、井川、高野、谷、谷口、川北、深山寺、檜曲、池河内、瀬河内、越坂、田尻、葉原、新保、泉ヶ丘町)
- ⑧中郷地区 (長沢、岡山町1・2丁目、古田刈、堂、山泉、道口、坂下、吉河、鳩原、小河口、小河、衣掛町)
- ⑨愛発地区 (市橋、疋田、追分、深坂、駄口、山中、奥野、曾々木、麻生口、奥麻生、新道、刀根、杉箸)
- ⑩栗野地区 (野神、新和町1・2丁目、和久野、市野々町1・2丁目、若葉町1・2・3丁目、櫛林、筋生野、沢、桜ヶ丘町、金山、関、野坂、ひばりヶ丘町、萩野町、長谷、砂流、御名、公文名、山、みどりヶ丘町)

■ 問6 「**特別警報**」について

1) 台風18号の際、9月16日の午前5時05分、福井県に大雨特別警報が発令されました。あなたは、「大雨特別警報」が出されたことをご存知でしたか。

- ① 知っていた ② 知らなかった〔 → 問7へお進み下さい〕

2) **1)で「①知っていた」と回答された方にお尋ねします。**

「**特別警報**」を最初に知ったのはいつ頃ですか。

- ① 当日午前5時すぎから午前6時ごろまで
② 当日午前6時すぎから午前7時ごろまで
③ 当日午前7時すぎから午前8時ごろまで
④ 当日午前8時すぎから午前9時ごろまで
⑤ 当日午前9時すぎから午前10時ごろまで
⑥ 当日午前10時頃から昼ごろまで
⑦ 当日の昼より後

3) 「特別警報」が発令されたことを初めに知ったのは、どのような情報源でしたか。

- ① ケーブルテレビ (RCN) の防災放送チャンネル
② (NHKなど) テレビの放送
③ 敦賀市防災情報配信メール (TonBoメール)
④ (緊急速報メールなど) の防災関連メール
⑤ 防災情報受信機 (防災ラジオ)
⑥ (一般の) ラジオ放送
⑦ 市役所や消防の広報車
⑧ 知人や地域の人からの連絡や情報提供
⑨ 敦賀市のホームページ
⑩ ツイッターなどのソーシャルネットワークサービス (SNS)
⑪ その他 ()

- 問 1 3 今回の台風 1 8 号では、敦賀市からの避難勧告等の防災情報をケーブルテレビ（RCN）防災放送チャンネル、敦賀市防災情報配信メール（TonBoメール）、防災情報受信機（防災ラジオ）、広報車などを活用し、お知らせを行いました。お知らせした情報については、分かりやすかったですか。
-

- ① 非常に分かりやすかった } [→ 問 1 5 へお進み下さい]
② ある程度理解できた }
③ 内容はよく分からなかったが、何らかの警報等が出ていることは分かった
④ よく分からなかった
⑤ 全く分からなかった

- 問 1 4 問 1 3 にて、「③ 内容はよく分からなかったが何らかの警報等が出ていることは分かった」「④ よく分からなかった」「⑤ 全く分からなかった」と回答した方にお尋ねします。
分からなかった理由はなんですか。
-

- ① 文章が長すぎて分からなかった
② 文章が短すぎて分からなかった
③ その他（ ）

■ 問8 問7 1) にて、「①知っていた」と回答した方にお尋ねします。

あなたは、避難勧告が出たことを知った後、どのように行動しましたか。

- ① すでに自宅から他の場所へ避難していた
- ② 自宅から他の場所へ避難した

■次から具体的な場所をお答えください

〔イ. 避難所 ロ. 地区の会館等 ハ. 知人宅等 ニ. その他()〕

- ③ 自宅より安全と思う場所に移動した

■具体的な場所をお答えください

〔(例えば、二階など) 〕

- ④ 特に避難行動を取らなかった 〔 → 問10へお進み下さい 〕

■ 問9 問8にて、「① すでに自宅から他の場所へ避難していた」「② 自宅から他の場所へ避難した」「③ 自宅より安全と思う場所に移動した」と回答した方にお尋ねします。

あなたが避難行動を取った理由はなぜですか。

- ① 避難勧告が出たので、それに従おうと思ったから
- ② 各種の気象情報から、洪水や土砂崩れの危険を感じたから
- ③ 近隣の人や消防団から避難を直接呼びかけられたから
- ④ 地区内が浸水し始めたから
- ⑤ その他 ()

〔 → 問11へ
お進み下さい 〕

■ 問10 問8にて、「④ 特に避難行動を取らなかった」と回答した方にお尋ねします。

あなたが避難行動を取らなかった理由はなぜですか。

- ① 各種の気象情報から洪水や土砂崩れの危険を感じなかったから
- ② 過去の台風被害から判断して被害が出るとは考えなかったから
- ③ 何もしないでいる方が安全だと思ったから
- ④ 避難所がどこにあるかわからなかったから
- ⑤ その他 ()

- 問 1 1 あなたの地域では、地域住民同士による避難活動の支援（避難の呼びかけ、避難活動の支援など）がありましたか。あった場合、その具体的な内容をお書きください。

① あった

② なかった。

↓

具体的な内容（例えば、避難の呼びかけ、避難の手助けなど）

- 問 1 2 当時、台風等気象の情報を収集する際に、最も有効だった情報源はどれですか。A、Bそれぞれのグループからひとつずつ選んでください。

Aグループ

- ① ケーブルテレビ（RCN）の防災放送チャンネル
- ② 敦賀市防災情報配信メール（TonBoメール）
- ③ （緊急速報メールなど）の防災関連メール
- ④ 防災情報受信機（防災ラジオ）
- ⑤ 市役所や消防の広報車
- ⑥ 敦賀市のホームページ

Bグループ

- ① テレビ
- ② ラジオ
- ③ 知人や地域の人からの連絡や情報提供
- ④ パソコン
- ⑤ スマートフォン又は携帯電話
- ⑥ その他（ ）

- 問 1 3 今回の台風 1 8 号では、敦賀市からの避難勧告等の防災情報をケーブルテレビ（RCN）防災放送チャンネル、敦賀市防災情報配信メール（TonBoメール）、防災情報受信機（防災ラジオ）、広報車などを活用し、お知らせを行いました。お知らせした情報については、分かりやすかったですか。
-

- ① 非常に分かりやすかった } [→ 問 1 5 へお進み下さい]
 ② ある程度理解できた }
 ③ 内容はよく分からなかったが、何らかの警報等が出ていることは分かった
 ④ よく分からなかった
 ⑤ 全く分からなかった

- 問 1 4 問 1 3 にて、「③ 内容はよく分からなかったが何らかの警報等が出ていることは分かった」「④ よく分からなかった」「⑤ 全く分からなかった」と回答した方にお尋ねします。

分からなかった理由は何ですか。

- ① 文章が長すぎて分からなかった
 ② 文章が短すぎて分からなかった
 ③ その他 ()

3. あなたの防災関連情報についての把握状況をお尋ねします

- 問15 気象庁はこれまで、大雨、地震、津波、高潮などにより重大な災害の起こるおそれがある時に、警報を公表して警戒を呼びかけていました。これに加え、平成25年8月30日から、この警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、新たに「特別警報」を公表し、最大限の警戒を呼び掛けています。
あなたは「特別警報」についてご存知ですか。

- ① 良く知っていた ② なんとなく知っていた
③ 聞いたことあるが意味まで知らなかった ④ 知らなかった (初めて知った)

- 問16 あなたはお住まいの近くの避難所をご存知ですか。

- ① 良く知っている ② なんとなく知っている
③ 知らない

- 問17 あなたは防災情報受信機（防災ラジオ）をご存知ですか。

- ① 知っており設置もしている ② 知っており今後申請をする予定
③ 知っているがあえて申請していない ④ 知らない

- 問18 あなたは敦賀市防災情報配信メール（TonBoメール）をご存知ですか。

- ① 知っており登録もしている ② 知っているが登録の仕方がわからない
③ 知っているがあえて登録していない ④ 知らない

- 問19 あなたは緊急速報メール（エリアメールなど）をご存知ですか

- ① 知っている ② 聞いたことはあるが内容は知らない ③ 知らない

- 問20 もしあなたが避難等の行動をとる場合、最も参考となる情報は何だと考えますか。

- ① 台風の情報（進路予測や暴風域など）
② 降雨の情報（実測降雨量、予測雨量など）
③ 河川の情報（河川水位や河川カメラの映像など）
④ 市内の被害に関する情報
⑤ 市役所からの災害情報（避難勧告など）
⑥ その他（ ）

■ 問 2 1 災害時要援護者についてお尋ねします

1) 高齢者、障がい者、外国人、乳幼児、妊産婦の方々など、災害時に手助けが必要な人たちを「災害時要援護者」といいますが、あなたは「災害時要援護者」についてご存知でしたか。

① 良く知っていた

② なんとなく知っていた

③ 聞いたことあるが意味まで知らなかった

④ 知らなかった (初めて知った)

2) ご同居の方に「災害時要援護者」はいますか。

① いる

② いない [→ 問 2 2 へお進み下さい]

3) 2) にて、「① いる」と回答した方にお尋ねします。

避難時において、「災害時要援護者」の安全確保でどのような不安点がありますか。具体的な内容について、ご自由にお書きください。

具体的な内容

■ 問 2 2 災害情報の伝達方法や内容について、ご自由にご意見をお書きください。

自由意見

アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございました。

※ 本報告書の内容（文字、図表など）の引用、転載に関しては、一般的な著作権法の定めるところに従います。このため、本報告書を「引用」する際には、引用範囲がわかるように明示するとともに、出典を明記してください。出典を明記した引用であれば、その都度に情報利用許可を申請する必要はありません。

災害情報等に関する住民実態調査

発行日：平成26年 2月

発行：敦賀市市民生活部危機管理対策課

〒914-8501

敦賀市中央町2丁目1-1

電話：0770-22-8166

FAX 番号：0770-21-8682

メールアドレス：kikikanri@ton21.ne.jp

編集：株式会社サンワコン

〒918-8525

福井県福井市花堂北1-7-25

電話：0776-32-6171

FAX 番号：0776-36-3300